

下芝上田屋遺跡・上芝西龍之宮遺跡

西毛広域幹線道路(高崎西工区)社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

一〇二三

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



下芝上田屋遺跡 上芝西龍之宮遺跡

西毛広域幹線道路(高崎西工区)社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

下芝上田屋遺跡 上芝西龍之宮遺跡

西毛広域幹線道路(高崎西工区)社会資本総合整備事業に伴う
埋 藏 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2023

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

西毛広域幹線道路は、群馬県が進めている「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」のひとつ、「西毛軸」の主軸です。本道路は前橋市千代田町を起点に高崎市、安中市、富岡市を結ぶ全長約28kmの道路で、防災拠点や物流拠点が集積する前橋エリア、高崎・安中エリア、甘楽・富岡エリア間を結ぶネットワーク構築や混雑緩和、高速インターチェンジへのアクセス向上を目的としています。

本書で報告します下芝上田屋遺跡と上芝西龍之宮遺跡は、西毛広域幹線道路建設に伴い、令和2年度と令和3年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した遺跡です。

遺跡の発掘調査では、古代の水田、畑、井戸等が発見されました。調査面積が狭く、確認された遺構は多くありませんでしたが、榛名山東南麓における遺跡の特徴をよく表した遺跡であり、古代生産跡の様子の一端が明らかになりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでは、群馬県高崎土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が地域における歴史の解明に広く役立てられることを念じて、序といたします。

令和5年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

- 1 本書は、西毛広域幹線道路(高崎西工区)社会資本総合整備事業に伴い、令和2年度と令和3年度に発掘調査された下芝上田屋遺跡と上芝西龍之宮遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 下芝上田屋遺跡と上芝西龍之宮遺跡は群馬県高崎市箕郷町に所在し、本報告書で報告する調査対象地番は以下のとおりである。
 - 下芝上田屋遺跡：高崎市箕郷町下芝16-1、17-1、17-4
 - 上芝西龍之宮遺跡：高崎市箕郷町上芝541-1、541-2、542
- 3 事業主体者 群馬県高崎土木事務所
- 4 調査主体者 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査面積
 - 下芝上田屋遺跡：839.63m²
 - 上芝西龍之宮遺跡：1,701.78m²
- 6 発掘調査の期間と体制は以下のとおりである。

令和2年度

上芝西龍之宮遺跡

履行期間 令和2年4月1日から令和2年12月31日
調査期間 令和2年10月1日から令和2年10月31日
調査担当 唐沢友之(主任調査研究員) 原 雅信(専門調査役)
遺跡掘削工事 有限会社毛野考古学研究所
遺構測量委託 アコン測量設計株式会社

令和3年度

下芝上田屋遺跡、上芝西龍之宮遺跡

履行期間 令和3年4月1日から令和3年7月31日
調査期間 令和3年4月1日から令和3年5月31日
調査担当 田村 博(主任調査研究員) 麻生敏隆(専門調査役)
遺跡掘削工事 有限会社毛野考古学研究所
遺構測量委託 アコン測量設計株式会社

- 7 整理業務の期間と体制は以下のとおりである。

下芝上田屋遺跡

履行期間 令和4年7月1日から令和5年3月31日
整理期間 令和4年7月1日から令和4年10月31日
編集担当 大西雅広(専門調査役)
デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)
遺物実測・写真撮影
金属製品：板垣泰之(専門員(主任))、上記以外：大西雅広(専門調査役)

保存処理：板垣泰之(専門員(主任)) 関 邦一(専門調査役)

本文原稿：大西雅広(専門調査役)

上芝西龍之宮遺跡

履行期間 令和4年7月1日から令和5年3月31日

整理期間 令和4年11月1日から令和5年2月28日

編集担当 大西雅広(専門調査役)

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺物実測・写真撮影

金属製品：板垣泰之(専門員(主任))、上記以外：大西雅広(専門調査役)

保存処理：板垣泰之(専門員(主任)) 関 邦一(専門調査役)

本文原稿：大西雅広(専門調査役)

8 発掘調査記録及び出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

9 発掘調査と報告書作成に関して、高崎市教育委員会には諸々の便宜を図って頂いた。

凡　例

- 1 本書で使用した座標は、平面直角座標第IX系(JGD2011)である。遺構個別図では座標値(m単位)の下三桁で表記した。
- 2 遺構図中の北方記号は座標北を示す。
- 3 遺構図と遺物実測図の縮尺は各図に示した。
- 4 遺構断面図と等高線の高さは標高で示した。
- 5 遺構名称は原則として発掘調査時に付されたものを用いたが、遺構説明の都合上、遺構番号を追加した場合がある。なお、調査記録類については調査時の状態で番号の追加を行っていない。
- 6 土層の色調表記には、『新版 標準土色帖』(1997農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修)を用いた。
- 7 本書で用いたテフラの略称は町田洋・新井房夫1992『火山灰アトラス』(東京大学出版会)に従い、以下のとおりとした。

As-Kk：浅間船川テフラ 太治3(1128)年の浅間山噴火に伴うテフラ

As-B：浅間Bテフラ(軽石) 天仁元(1108)年の浅間山噴火に伴うテフラ

Hr-FP：榛名二ツ岳伊香保テフラ 6世紀前半の榛名山噴火に伴うテフラ

Hr-FA：榛名二ツ岳渋川テフラ 6世紀初頭頃の榛名山噴火に伴うテフラ

目 次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第1章 発掘調査の経過と方法 ······	1	第4章 上芝西龍之宮遺跡 ······	22
第1節 発掘調査に至る経過 ······	1	第1節 基本層序 ······	22
第2節 発掘調査の方法と経過 ······	1	第2節 確認された遺構と遺物 ······	22
(1)概要 ······	22	(2) 1面の遺構と遺物 ······	22
①溝 ······	22	(1)溝 ······	22
②水田 ······	24	(2) ピット ······	24
③ピット ······	24	(3) 2面の遺構と遺物 ······	24
(3) 2面の遺構と遺物 ······	24	①概要 ······	24
②ピット ······	25	②ピット ······	25
③井戸 ······	26	③井戸 ······	26
(4)遺構外出土遺物 ······	26	(4)遺構外出土遺物 ······	26
第3節 調査のまとめ ······	21	第3節 調査のまとめ ······	36

挿図目次

第1図	下芝上田屋道路と上芝西龍之宮遺跡の位置	2
第2図	下芝上田屋道路と上芝西龍之宮遺跡周辺の地形(1)	3
第3図	下芝上田屋道路と上芝西龍之宮遺跡周辺の地形(2)	4
第4図	下芝上田屋道路と上芝西龍之宮遺跡周辺の遺跡(1)	6
第5図	下芝上田屋道路と上芝西龍之宮遺跡周辺の遺跡(2)	7
第6図	4区1面全断面	13
第7図	4区1号溝、2号溝平面図	14
第8図	4区1号溝、2号溝断面図	15
第9図	4区遺構外出土遺物図	15
第10図	4区2面全体図	16
第11図	4区2面水平断面図	17
第12図	4区3面全体図、河道断面図	18
第13図	4区3面断面・断面図	19
第14図	4区3面基本土層と深掘りトレンチ配置図、断面図	20
第15図	1面、2面全体図	27
第16図	1面、2面断面図	28
第17図	1面全体図	29
第18図	1面1号溝平・断面図	30
第19図	1面2号溝、3号溝、4号溝、8号溝平・断面図	31
第20図	1面5号溝、平・断面図、出土遺物大観図	32
第21図	1面6号溝、7号溝、1号畔平・断面図	33
第22図	1面ビット群平・断面図	34
第23図	2面ビット群平・断面図	35
第24図	2面1号井戸平・断面図、出土遺物図	36
第25図	1区遺構外出土遺物図	36

表目次

第1表 周辺道路一覧 8

写真図版目次

P L. 1	下芝上田屋遺跡	
1	4区1面 全景(南東から)	
2	4区1面 南側(東から)	
3	4区1面 北側(南東から)	
4	4区1面 東側(北西から)	
5	4区1面 1・2号溝全景(北から)	
6	4区1面 1・2号溝全景(西北から)	
7	4区1面 1号溝東部(北西から)	
8	4区1面 1・2号溝(南東から)	
P L. 2	下芝上田屋遺跡	
1	4区1面 1・2号溝北西部(南から)	
2	4区1面 1号溝上断面B	
3	4区2面 水田確認状態(北東から)	
4	4区2面 水田確認状態(東から)	
5	4区2面 水田全景(北東から)	
6	4区2面 水田西側(南西から)	
7	4区2面 水田全景(西から)	
8	4区2面 水田全景(東から)	
P L. 3	下芝上田屋遺跡	
1	4区3面 烟全景(北西から)	
2	4区3面 烟全景(南東から)	
3	4区3面 烟中央部(北から)	
4	4区3面 烟西側(北から)	
5	4区3面 烟中央部(南から)	
6	4区3面 烟中央部(南から)	
7	4区3面 烟西側(南から)	
8	4区3面 烟東側(南から)	
P L. 4	下芝上田屋遺跡	
1	4区3面 烟北側(北西から)	
2	4区3面 河道と烟(北東から)	
3	4区3面 烟北側(北から)	
4	4区3面 河道上断面	
5	4区深掘りトレンチ上断面B	
6	4区深掘りトレンチ上断面C	
7	4区深掘りトレンチ上断面D	
8	4区遺構外出土遺物	
P L. 5	上芝西龍之宮遺跡	
1	道路(中央下)上空から櫻名山(左上)を望む	
2	道路(中央下)上空から赤城山を望む	
P L. 6	上芝西龍之宮遺跡	
1	1区1面全景(北東から)	
2	1区1面全景(北西から)	
P L. 7	上芝西龍之宮遺跡	
1	1区1面全景(東から)	
2	1区1面全景(上から)	
P L. 8	上芝西龍之宮遺跡	
1	1区1面東側(上から)	
2	1区1面西側(上から)	
3	1区1面全景(南西から)	
4	1区1面 1号溝全景(南西から)	
5	1区1面 1号溝全景(北から)	
6	1区1面 1号溝全景(西から)	
7	1区1面 1号溝上断面A	
P L. 9	上芝西龍之宮遺跡	
1	1区1面 3号溝(南から)	
2	1区1面 4号溝全景(南から)	
3	1区1面 4号溝上断面A	
4	1区1面 5号溝(東から)	
5	1区1面 5号溝上断面A	
6	1区1面 5号溝上断面B	
7	1区1面 6号溝全景(南から)	
8	1区1面 6号溝上断面C	
P L. 10	上芝西龍之宮遺跡	
1	1区1面 7号溝全景(南から)	
2	1区1面 7号溝作具痕(南から)	
3	1区1面 7号溝作具痕(南から)	
4	1区1面 7号溝作具痕確認状態(西から)	
5	1区1面 7号溝作具痕確認状態(西から)	
6	1区1面 7号溝作具痕断面(1)	
7	1区1面 7号溝作具痕断面(2)	
8	1区1面 7号溝作具痕底掘削(西から)	
P L. 11	上芝西龍之宮遺跡	
1	1区1面 1号畔全景(南から)	
2	1区1面 1号ビット全景(西から)	
3	1区1面 2号・3号ビット全貌(東から)	
4	1区1面 4号ビット全景(西から)	
5	1区1面 5号ビット全景(西から)	
6	3区1面(As-B下)全景(南から)	
7	3区1面(As-B下)北東側(南東から)	
8	3区1面(As-B下)南西側(南東から)	
P L. 12	上芝西龍之宮遺跡	
1	3区2面東側(南西から)	
2	3区2面 1号井戸上断面(南西から)	
3	3区2面 1号井戸全景(北から)	
4	3区2面 7号から15号ビット全景(南から)	
5	3区2面 6号ビット全景(南から)	
6	3区2面 7号ビット全景(西から)	
7	3区2面 8号ビット全景(西から)	
8	3区2面 9号から12号ビット全景(南西から)	
P L. 13	上芝西龍之宮遺跡	
1	3区2面 9号ビット全景(南から)	
2	3区2面 10号ビット全景(南西から)	
3	3区2面 11号ビット全景(南西から)	
4	3区2面 12号ビット全景(南西から)	
5	3区2面 13号・14号ビット全景(南西から)	
6	3区2面 15号ビット全景(西から)	
7	3区2面 16号ビット全景(西から)	
8	3区2面 17号ビット全景(西から)	
P L. 14	上芝西龍之宮遺跡	
1	1区1面 5号溝出土遺物1	
2	3区2面 1号井戸出土遺物1	
3	1区遺構外出土遺物1	
4	1区遺構外出土遺物2	
5	1区遺構外出土遺物3	

第1章 発掘調査の経過と方法

第1節 発掘調査に至る経過

西毛広域幹線道路は、前橋市と富岡市をつなぐ延長27.8kmの道路である。本道路は大規模災害時の支援物資輸送等、県民の安全な暮らしや企業等の安定した経済活動支援及び周辺地域の渋滞緩和、物流の効率化、観光振興による西毛地域のさらなる発展への寄与を目的として計画された。

本書で報告する下芝上田屋遺跡、上芝西龍之宮遺跡の両遺跡地は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、隣接地に周知の埋蔵文化財包蔵地(下芝上田屋遺跡：高崎市遺跡番号02238)が存在することから、県文化財保護課により約3,600m²を対象地として令和2年5月8日に試掘・確認調査が実施された。その結果、中世以降の溝や洪水堆積層下の畠が確認されるとともに、As-B下水田の存在も想定された。事業対象地の東側は削平により遺構が存在しないため、この部分を除外した2,541.41m²が本調査必要と判断された。県文化財保護課はこの結果を高崎土木事務所に通知し、令和2年10月1日から令和2年10月31日(上芝西龍之宮遺跡)、令和3年4月1日から令和3年5月31日(下芝上田屋遺跡、上芝西龍之宮遺跡)を調査期間として公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を受託し、本調査を実施した。

第2節 発掘調査の方法と経過

発掘調査は令和2年度と3年度の2回に分けて実施した。令和2年度は上芝西龍之宮遺跡1,701.78m²中、1,406.52m²の調査を実施し、As-B下水田や中近世の溝等を確認した。令和3年度は上芝西龍之宮遺跡の未調査部分295.26m²と下芝上田屋遺跡839.63m²の調査を実施し、古代の水田や畠等を確認した。なお、隣接する北陸新幹線敷地部分は北陸新幹線建設に伴って下芝上田屋遺跡(1区から3区)として発掘調査を実施し、平成10年に報告書が刊行されている⁽¹⁾。そのため、今回報告する下芝上田屋遺跡の調査区を「4区」と呼称することとした。

下芝上田屋遺跡、上芝西龍之宮遺跡の発掘調査にあたっては、平爪を装着したバックホーにより表土掘削を行った後、発掘作業員が鋤廉を用いて遺構確認を行った。なお、遺構確認時の出土遺物量が少量であったため、グリッドでの取り上げは行わず、一括して取り上げることとした。遺構確認後は、発掘作業員による遺構掘削、調査担当による遺構断面観察と記録を行った。

遺構測量は業者に委託して行い、DWGとEPS形式データ及び普通紙プリントを成果品とした。なお、普通プリント成果品の縮尺は、遺構平面図を1/40、遺構断面図を1/20とした。遺構写真撮影はデジタル一眼レフカメラ(RAW+jpg)とプロニー判モノクロフィルム使用の6×7判一眼レフカメラを用い、調査担当者が撮影を行った。遺構平面図作成の基準は、平面直角座標系第IX系(平成十四年国土交通省告示第九号)を使用した。本報告に際して、遺構個別図では座標をm単位の下3桁で略記した。なお、測地系は世界測地系に基づく日本測地系2011(JGD2011)である。

また、空中写真是上芝西龍之宮遺跡(令和2年度調査)の調査区全景や水田跡の全体写真撮影を目的として業者に委託してラジコンヘリで実施した。ネガカラーとネガモノクロ写真については6×6の中判一眼レフカメラ、デジタルカメラは35mmフルサイズの一眼レフカメラを使用し、納品はネガカラーフィルム、ネガモノクロフィルム、2400dpiのtifおよび2400万画素のjpgデータとした。

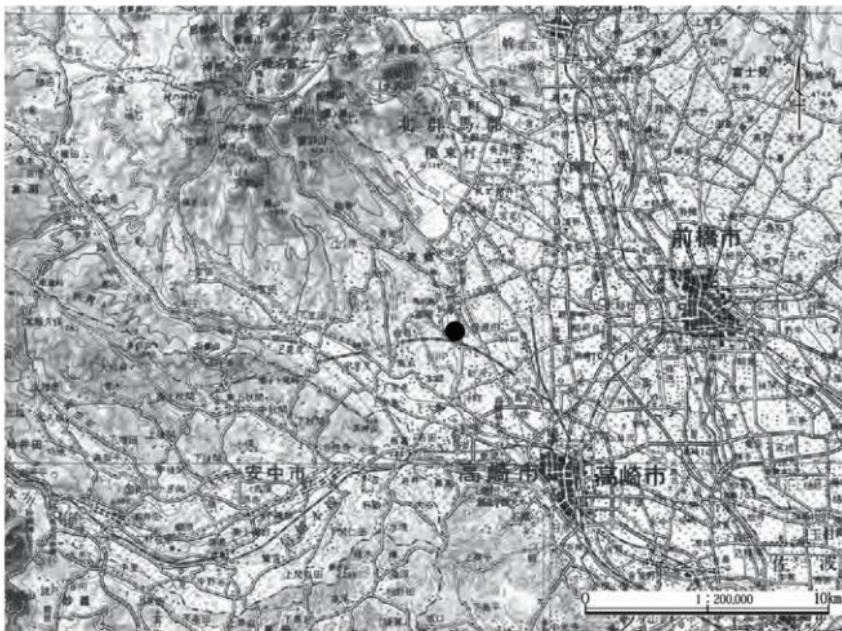
第2章 遺跡周辺の環境

第1節 地理的環境

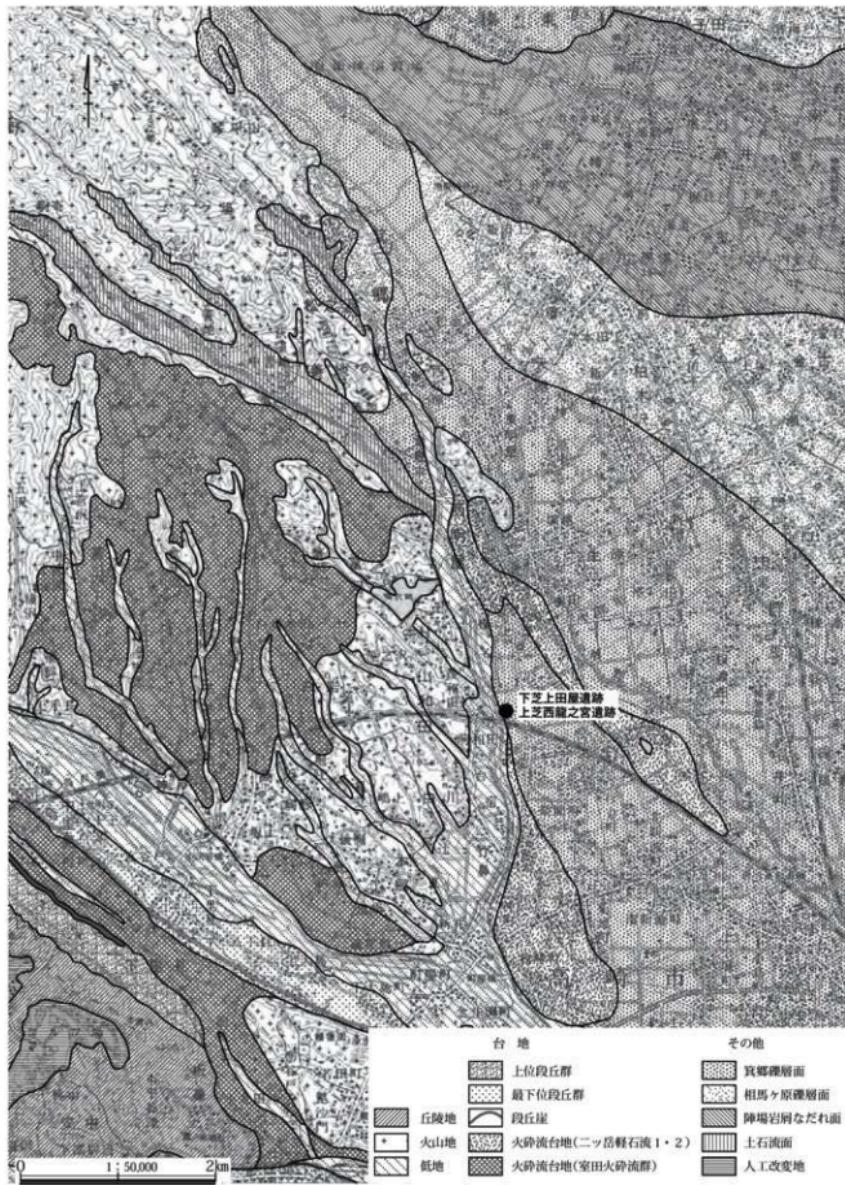
下芝上田屋遺跡と上芝西龍之宮遺跡は、高崎市街の北西に聳える榛名山南東麓に位置し、行政的には高崎市箕郷町下芝・上芝に所在する。箕郷町は榛名山東南麓を占め、標高1,315mの三ツ峰山と標高1,411mの相馬山から南東および南に傾斜し、標高120mの高崎市箕郷町白川に至り、高崎市行力町、楽間町へと続く。箕郷町域のほぼ中央には三ツ峰山と相馬山の間に源を発する大沢川および合流する榛名白川がほぼ中央を流れ、東側には井野川が流下している。この両河川の間には箕郷町西明屋付近を扇頂部とする、白川扇状地が広がっており、扇端部は早瀬川が東方向に流れを変えるあたりに想定されてい

る^{(2), (3), (4)}。白川扇状地の形成要因は古墳時代後期の榛名山二ツ岳噴火に伴う二次の洪水堆積物である。二度の噴火は古墳時代後期であるが、周辺遺跡では二次の堆積物において複数面の遺構が確認されており、断続的に何度も洪水に見舞われていたことが判明している⁽¹⁾。白川扇状地の東側には相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名白川を隔てた西側には開析谷の発達した十文字台地や本郷台地が広がっている。白川、相馬ヶ原両扇状地とこれら台地とはかなり強い地形のコントラストをなしている。

遺跡の位置する白川扇状地形成の主役である榛名白川は、その両岸に谷底平野を形成している。また、榛名白川左岸には早瀬川が存在し、早瀬川の右岸側が下芝上田屋遺跡、左岸側が上芝西龍之宮遺跡である。調査前の地形では下芝上田屋遺跡が標高約154m、上芝西龍之宮遺跡が標高155mから156mとやや榛名白川寄りに傾斜しており、白川扇状地西端に位置する。よって、遺跡地以西は谷底平野となる。



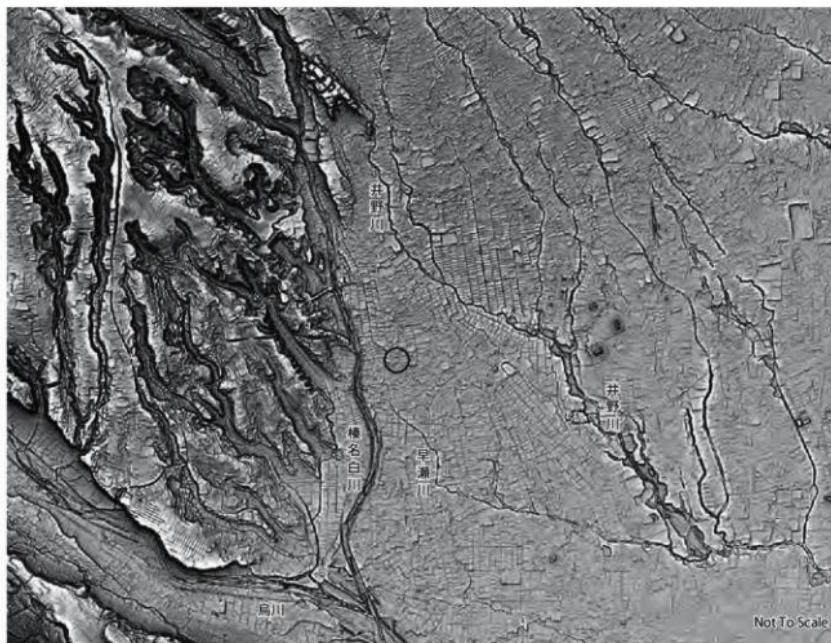
第1図 下芝上田屋遺跡と上芝西龍之宮遺跡の位置
(国土地理院発行地勢図20万分の一「宇都宮」、「長野」を編集・加工)



第2図 下芝上田屋遺跡と上芝西龍之宮遺跡周辺の地形(1)
((公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『下芝内出烟遺跡 和田山天神前2遺跡』を編集・加工)

参考文献

- 1 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『下芝天神前遺跡・下芝上田屋遺跡』
- 2 箕郷町教育委員会『海行A・B道路』
- 3 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『行力春名社遺跡』
- 4 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『浜川遺跡群』



第3図 下芝上田屋遺跡と上芝西龍之宮遺跡周辺の地形(2)

カシミール3Dで作成した地形表現に河川名と遺跡の位置を追記

第2節 歴史的環境

旧石器時代

榛名白川右岸の十文字台地や本郷台地上に位置する和田山天神前遺跡(52)、白川傘松遺跡(53)、白岩民部遺跡(56)、本郷萱原遺跡(61)においてAT下の暗色帯や暗色帯相当層から石器が出土している。

縄文時代

旧石器時代同様、十文字台地や本郷台地に多い傾向が認められ、調査された遺跡数のわりに和田山天神前遺跡(52)、白川傘松遺跡(53)、白川笹塚遺跡(54)、白川浦久保遺跡(55)、高浜天狗原遺跡(65)等、前期以降の遺跡が

多く存在する。これに対して相馬ヶ原扇状地では縄文時代中期から遺跡が認められるものの、遺跡数・遺構数共に少ない傾向が受けられる。また、白川扇状地では遺構が確認された例はないが、下谷ツ古墳(7)において前期の土器が出土しており、泥流下に縄文時代遺跡の存在が示唆されている。

弥生時代

弥生時代の遺跡は、烏川左岸の本郷台地に後期の遺跡が集中する傾向が顕著に認められ、蔵屋敷遺跡(114)、道場Ⅱ遺跡(115)、蔵屋敷Ⅱ遺跡(123)、供養塚遺跡(124)が近接して存在する。これに対し、相馬ヶ原扇状地では保渡田荒神前遺跡(73)で弥生時代末の竪穴建物が確認されている程度である。また、白川扇状地では、厚く堆積

したHr-FP泥流とHr-FA泥流の影響もあって遺跡数が極めて少ないが、浜川長町遺跡(21)においてAs-C下から後期の土器がまとまって出土しており、泥流下には弥生時代の遺跡が存在していた可能性が高い。

古墳時代

古墳時代は、白川扇状地形成のきっかけとなった2度の榛名山噴火と泥流が発生した時期であり、6世紀初頭以前の地表が厚い泥流に覆われ、Hr-FA降下以前の状況を把握しづらいが、北陸新幹線建設に伴う発掘調査等によって部分的ながらも明らかとなってきている。本遺跡に近い下芝天神遺跡(11)では4mを超える泥流下において、As-C下からは烟が、Hr-FA下からは器物集積遺構や堅穴建物が確認されている。下芝五反田遺跡(10)でも4m程のHr-FP泥流とHr-FA泥流に覆われたHr-FA下で堅穴建物と建物を取り囲むように広がる烟や土器集積遺構(3カ所)が確認されている。確認された堅穴建物は、5世紀中葉から6世紀初頭である。同じ下芝五反田遺跡であるが、高崎市教育委員会が調査した地点(6)では、約4mの泥流下に存在するHr-FA下で烟や土器集積、道が確認されている。また、近接する下芝萬行遺跡(9)では約4mの泥流下においてHr-FA降下後、泥流堆積以前の烟が確認されている。この泥流下烟は、下芝天神遺跡(11)において「泥流下烟」として報告された烟と同一時期の烟であろう。Hr-FA降下以前では、下芝天神遺跡でAs-C下烟、浜川長町遺跡(21)や浜川高田遺跡(23)でAs-C下水田が確認されている。このため、耕作地を営んだ集落の存在も確実視されている。As-C降下時期から6世紀初頭頃まで耕作地や集落が展開したこの地もHr-FAによって大打撃を被り、集落と耕作地が継続的に営まれるようになるのは平安時代を待たなければならなかった。白川扇状地の東側に位置する浜川館遺跡(29)では、泥流間ににおいてHr-FP下水田が確認されているが、行力春名社遺跡(16)ではHr-FP下の旧地表が確認されたものの、堅穴建物や水田、烟等の遺構は確認されておらず、Hr-FP下での居住域や耕作域が広く展開していなかった可能性がある。

次に古墳であるが、白川扇状地の泥流下で確認された古墳では下芝谷ツ古墳(7)が注目される。下芝谷ツ古墳は上段が積石塚に類似した2段築成方墳で、規模は1辺約20mである。出土した金銅製飾履等から半島系の被葬者が想定されている。他に韓式系土器が出土した遺跡と

して、本郷台地に立地する蔵屋敷遺跡(114)、寺内遺跡があり、剣崎長瀬西遺跡や剣崎長瀬西古墳に積石塚古墳群が築かれ、集落からは韓式系土器が出土するなど、渡来系氏族の存在を窺わせる。

奈良・平安時代

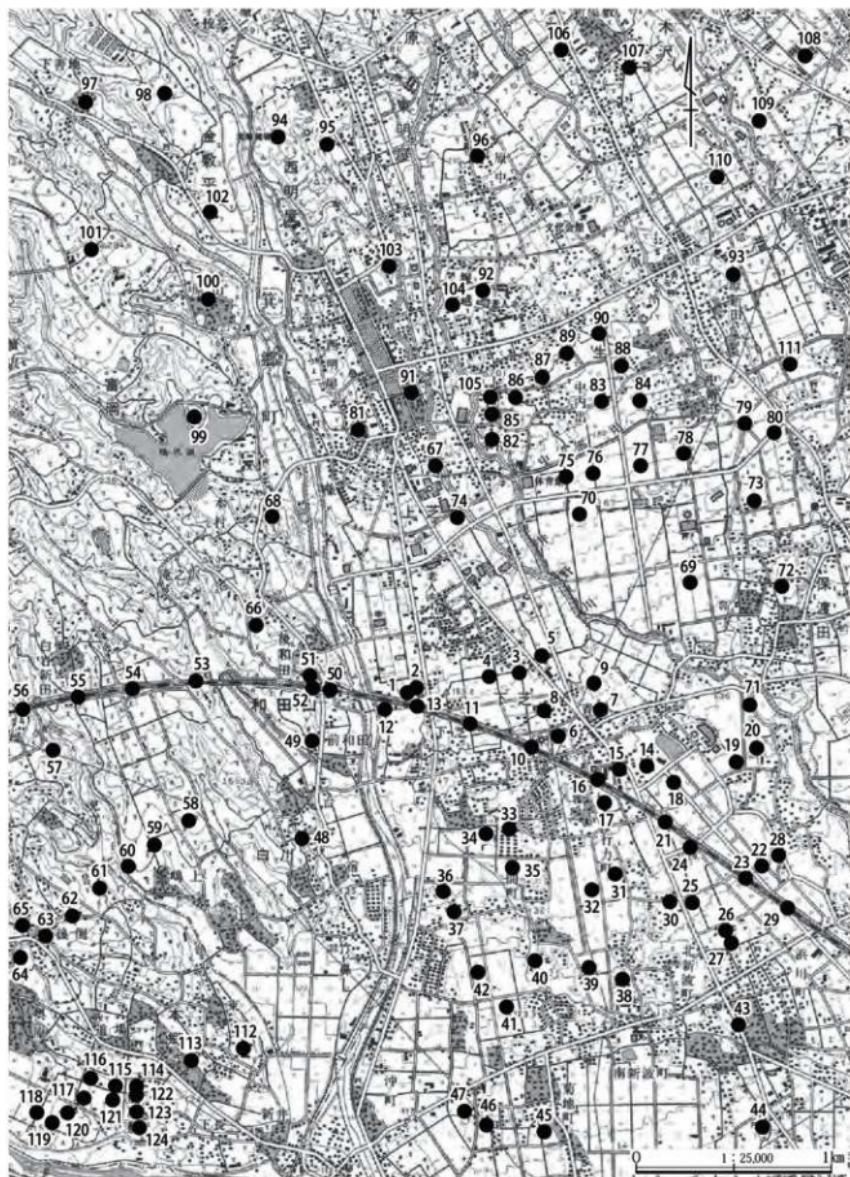
白川扇状地はHr-FA泥流とHr-FP泥流による度重なる洪水災害によって6世紀から8世紀の様子が明らかではない状態であるが、浜川長町遺跡(21)では7世紀の堅穴建物が泥流中から2棟確認されている。また、年代を特定できないが、北陸新幹線建設に伴って発掘調査された下芝上田屋遺跡(13)ではHr-FP泥流中から水田が確認されている。その後、9世紀頃には泥流堆積が落ちていたようで、泥流上面を掘り込んだ堅穴建物が下芝内出畠遺跡(3)や薬師遺跡(4)、下芝五反田遺跡(10)、下芝天神遺跡(11)等で確認されるようになる。しかし、高崎市教育委員会が調査した下芝五反田遺跡(6)では泥流層間の流路から回転糸切痕を有する須恵器碗が出土しており、局所的な泥流堆積は平安時代にも発生していたようである。

この地はその後1108年には浅間山の噴火(As-B)によっても被災する。白川扇状地や相馬ヶ原扇状地には当時広大な水田が展開していて、多くの遺跡でAs-B下水田が確認されている。As-B下で確認されている水田の開始時期は、9世紀以降に拡大する集落の存在と連動するであろう。

中世

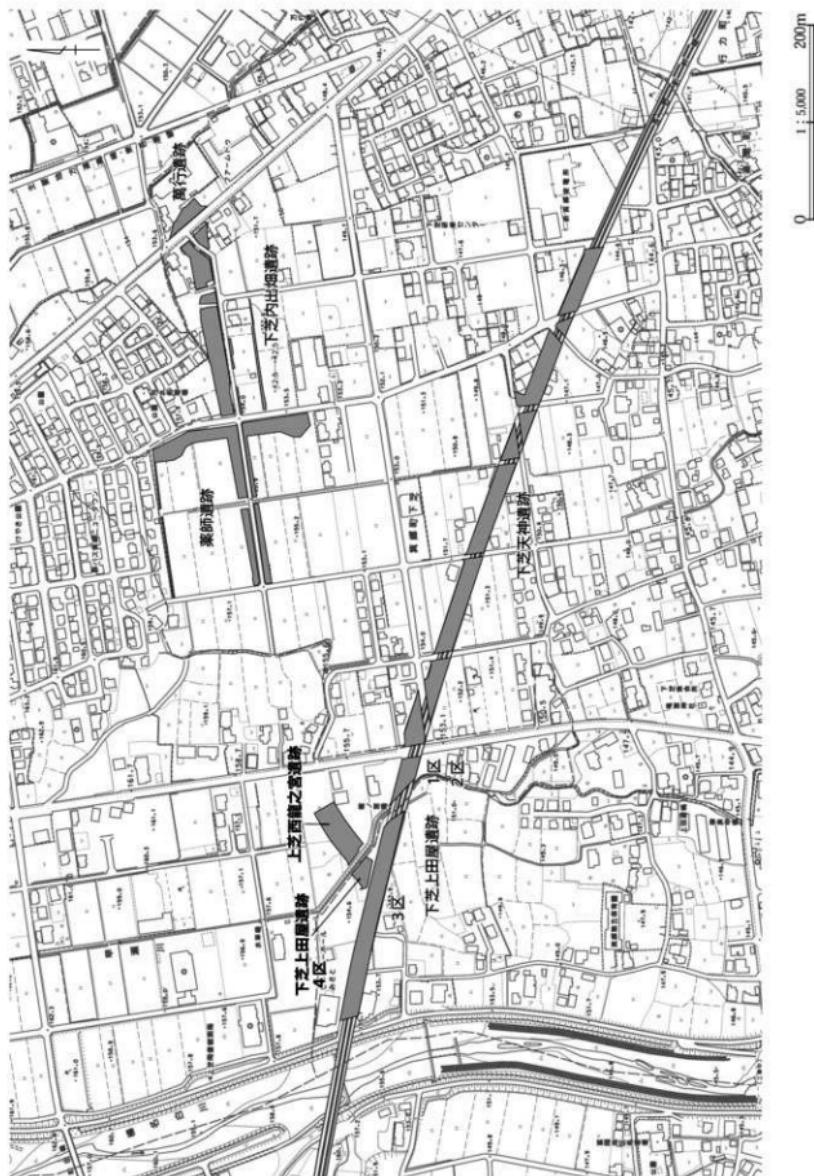
As-Bの降下後、年代は特定できないが、本遺跡周辺では耕作具痕が多く確認され、本遺跡周辺が再び耕地化された様子を窺うことができる。この耕作具痕は、年代がある程度限定される例もあり、下芝天神遺跡(11)ではAs-Kk下位からAs-B上位に掘り込み面が限定される箇所が確認されている。

耕作具痕以外では中世屋敷・館も多く認められ、本遺跡周辺地域を開発・支配した長野氏家臣団の館と考えられている遺跡が多数存在する。代表的な遺跡としては、矢島氏の砦、高田屋敷(22)、浜川高田遺跡(23)、浜川北遺跡(19)、北新波の砦(38)があげられる。



第4図 下芝上田屋遺跡と上芝西龍之宮遺跡周辺の遺跡(1)

(国土地理院1/25,000地形図「下室田」を編集・加工)



第5図 下芝上田屋道跡と上芝西龍之宮跡周辺の道路(2)
(高崎市都市計画基本図 1:2500を加工)

第2章 遺跡周辺の環境

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時 代				主な内容	主な文献	
		旧石器	弥生	古墳	奈良 平安	中世		
1	下芝上田原遺跡						本報告書掲載	
2	上芝西龍之宮遺跡						本報告書掲載	
3	下芝内出畠遺跡	○	○				平安時代堅穴建物7棟、掘立柱建物4棟、製鉄炉5基。As-B下水田。中世掘立柱建物23棟。中世火葬土坑・上壙2基基礎。	1
4	菊師遺跡	○	○	○			中世山溝溝溝。近世・近代烟。	2
5	萬行遺跡	○	○	○			古墳時代土器集積1カ所、烟。平安時代土坑、溝。中世と推定される耕作痕。	3
6	下芝五反田遺跡(高崎市調査)	○	○	○			古墳時代土器集積1カ所、烟。平安時代土坑、溝。中世と推定される耕作痕。	4
7	下芝谷ツ遺跡	○	○	○			古墳時代土器集積1カ所、烟。平安時代土坑、溝。中世と推定される耕作痕。	4+63
8	下芝の野						詳細不明。	5
9	下芝萬行遺跡	○	○				古墳時代烟。平安時代堅穴建物？1棟、土坑等。	3
10	下芝五反田遺跡	○	○	○			古墳時代堅穴建物10棟、平地建物6棟、烟、土器集積1カ所。奈良・平安時代堅穴建物142棟。As-B下水田。14世紀以降の水田。	6+7
11	下芝天神遺跡	○	○	○			古墳時代土器集積構造、烟。平安時代堅穴建物4棟、As-B下水田。As-B部下に降、As-K部下以前の耕作痕。	8
12	青柳屋敷						推定伝承施設・在城者青柳治部。	5
13	下芝上田原遺跡(1)～(3)(X)	○	○	○			FP泥炭中の水田、烟。As-B部下後の耕作痕。	8
14	浜川北(西調査区)遺跡						As-B下水田。	9
15	行力道跡群 棚名社遺跡						平安時代堅穴建物1棟。中世墓等。	10
16	行力春名社遺跡	○	○	○			古墳時代堅穴建物3棟、滑石製品工房。奈良・平安時代掘立柱建物6棟、As-B11下水田。中世屋敷闇連通築。	11
17	一丁田・棚名社西遺跡	○	○	○			As-B下水田。中世溝3条、井戸2基等。	12
18	道場遺跡群 長町・踏分遺跡	○	○	○			As-B下水田。	13
19	浜川北(東調査区)遺跡						平安時代堅穴建物14棟。中世堀址他、火葬墓2基から古瀬戸瓶子出土。	9
20	道場遺跡群 谷津・道場遺跡	○	○	○			古墳墓。平安時代堅穴建物4棟、As-B下水田。中世館址。	13+14
21	浜川長町道路	○	○	○			As-C下水田。Hir-F下水田。古墳時代堅穴建物2棟。As-B下水田。	15
22	高田屋敷						280m道場遺跡群にて一部発掘調査。方形船か。高田氏か。	5
23	浜川高田遺跡	○	○	○			As-C下水田。Hir-F下水田。As-B下水田。中世井戸・溝等。中世遺構は高田屋敷と互に屋敷に隣接する遺構。	15
24	与平屋敷						詳細不明。	5
25	長町屋敷						詳細不明。遺跡状況不良。	5
26	夷島の砦(夷島城)	○					27mの夷島遺跡で発掘調査。複郭(無郭)。13世紀か、16世紀に改修。築城者は5+16夷島氏左衛門伊藤勝。	5
27	夷島遺跡						中世霞ヶ浦の一部、掘立柱建物29棟や堅穴造横10基等。	17
28	道場遺跡群	○	○	○			高田・朝道跡: As-B下水田。中世断崖、掘立柱建物、土坑、井戸、溝、罐倉13時代の刷型製音符筒音符筒出土。長町・踏分遺跡: As-B下水田。谷津・道場遺跡: Hir-F下の造り出しを有する円墳1基。	13
29	浜川館遺跡	○	○	○			As-C下水田。Hir-F下水田。古墳時代と奈良時代堅穴建物各1棟。中世講。As-B部下に隣接作舟。	15
30	長野北部道跡群 天守坂・中屋敷口1遺跡	○	○	○			As-B下水田。	18
31	長野北部道跡群 江原(1)・中屋敷西(II)・上屋敷(1)遺跡						平安時代堅穴建物6棟、As-B下水田等。	19
32	長野北部道跡群 中屋敷西I・駿田清水I・舞台I遺跡	○	○	○			平安時代堅穴建物1棟、As-B下水田。近世墓7基。中世遺物少量出土。	20
33	舞台(II)・清水(II)遺跡						平安時代堅穴建物16棟、As-B下水田等。	21
34	下芝・原遺跡	○	○	○			As-B下水田。近世墓。	22
35	長野北部道跡群 中屋敷I・舞台II・舞台III遺跡	○	○	○			平安時代堅穴建物18棟、As-B下水田。	23
36	長野北部道跡群 水口替戸・石田遺跡	○	○	○			As-B下水田。	24
37	井野屋敷						推定伝承施設16世紀。推定伝承施設・在城者井野氏。	5
38	北新波の跡	○	○	○			平安時代堅穴建物1棟。15世紀後半～16世紀前半頃の環濠溝の一部。	25
39	北新波遺跡						平安時代堅穴建物1棟、As-B下水田。	26
40	菊地道跡群(VI) 石神・五反田(II)遺跡	○	○	○			平安時代堅穴建物9棟、As-B下水田。中世溝。	27
41	菊地道跡群(V) 上野前I・大明神I遺跡	○	○	○			平安時代堅穴建物1棟、As-B下水田。	28
42	(II)・五反田(I)遺跡	○	○	○			As-B下水田。	29
43	北爪の砦(北城)						推定伝承施設16世紀。推定伝承施設・在城者北爪上佐。	5
44	上小編福岡山古墳	○	○	○			直径約45mの大型円墳。6世紀第2四半期の築造。	30
45	菊地道跡群(1)	○	○	○			As-B下水田。	31
46	菊地道跡群(1)	○	○	○			平安時代堅穴建物2棟、As-B下水田等。	32
47	菊地道跡群(田) 当貝戸・蘆原遺跡	○	○	○			平安時代堅穴建物5棟、As-B下水田。	33
48	白川の野						詳細不明。	5
49	和田山天神前II遺跡	○	○	○			遺構の年代は不明であるが、6世紀代の土器・埴輪片と中世耳环片出土。	1
50	和田山館						推定伝承施設・在城者白川溝勝。	5
51	和田山古墳群	○	○	○			7世紀代の古墳群。	34
52	和田山天神前遺跡	○	○	○	○		AT崩下から石器21点出土。縄文時代前期から後期の堅穴建物3棟、上坑42基、33理段上窓2基。滑石時代堅穴建物5棟、古墳26基、罐等。平安時代堅穴建物2棟、As-B下水田、馬糞土坑等。中世寺跡。江戸時代屋敷。	35
53	白川拿章遺跡	○	○	○			昭和時代から釋迦塔と石碑出土。縄文時代中期堅穴建物7棟、土坑367基。基礎。	36
54	白川笹塚遺跡	○	○	○			縄文時代堅穴建物13棟。直徑11.5mの円墳、主体部は前底部を有する横穴式石室。	37

番号	遺跡名	時代					主な内容	主要文献
		旧石器	縄文	弥生	奈良	平安	中世	
55	白岩浦久保遺跡	○	○	○	○	○	○	縄文前期土坑7基。古墳時代竪穴建物4棟。平安時代竪穴建物1棟。江戸時代溝。37
56	白岩民部道跡	○	○	○	○	○	○	円色帶から石器726点出土。37
57	子安遺跡	○						縄文時代前期竪穴建物2棟。38
58	茅畠遺跡	○	○	○	○	○	○	7世紀の古墳1基。平安時代竪穴建物4棟、獨立柱建物18棟。中世から近世の溝や塁。39
59	鳴上I遺跡	○	○	○	○	○	○	弥生時代後期竪穴建物15棟。古墳時代竪穴建物4棟。奈良・平安時代竪穴建物12棟。中世から近世の獨立柱建物3棟。39
60	本郷鳴上遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代から平安時代竪穴建物11棟、粘土採掘坑1基。40
61	本郷荒原遺跡	○	○	○	○	○	○	昭和時代相当層から石器品出土。古墳時代竪穴建物3棟。平安時代竪穴建物30棟。41 水室、粘土採掘坑。
62	本郷鶴庭道跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代から平安時代竪穴建物5棟。40
63	本郷大カサ遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代から平安時代竪穴建物21棟。40
64	本郷西谷津遺跡	○						As-B下水田。40
65	高浜天狗原遺跡	○	○	○	○	○	○	縄文時代前期竪穴建物3棟、中期竪穴建物1棟。古墳時代竪穴建物2棟。奈良時代竪穴建物2棟。平安時代竪穴建物2棟。42
66	高岡竹ノ内遺跡・和田山寺久保遺跡	○						古墳時代前期竪穴建物4基、7世紀末円墳4基、石郡1基。江戸時代溝2条、道1条。43
67	四ヶ谷古墳							直径20mほどの円墳。44
68	宮園の野							鷹定伝承の塚・在城者は長野直業。5
69	保渡田Ⅲ遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代水口状遺跡。As-B下水田。45
70	保渡田IV遺跡	○	○	○	○	○	○	平安時代竪穴建物7棟、As-B下水田他。46
71	保渡田Ⅴ横掛遺跡	○						As-B下水田。47
72	保渡田城							鷹定伝承の存続期間は天正10年、推定伝承の塚・在城者は内藤昌門。5
73	保渡田荒神前遺跡	○	○	○	○	○	○	弥生時代から古墳時代前期竪穴建物5棟。古墳4基、古墳時代後期竪穴建物4710棟。奈良・平安時代竪穴建物56棟。47
74	上芝・西金沢遺跡	○						As-B下水田。48
75	生原廻ノ内遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代竪穴建物1棟。奈良・平安時代竪穴建物58棟他。4
76	生原佐藤遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代以降竪穴建物55棟。4
77	生原販飯遺跡	○	○	○	○	○	○	縄文時代中期遺物包含層、土坑1基。古墳時代前期壹拾基2枚、古墳時代竪穴建物416棟。吉積1基。奈良・平安時代竪穴建物61棟。戰國時代船塀址。4
78	生原・善魔寺前遺跡	○	○	○	○	○	○	縄文時代竪穴建物4棟、古墳時代竪穴建物21棟、中世井干等。49
79	海行A遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代竪穴建物22棟、烟等。平安時代竪穴建物14棟。中世竪穴建物1棟。4
80	海行B遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代竪穴建物13棟。4
81	下田屋敷(上芝の野)	○						鷹定伝承・在城者下田政勝。5
82	生原薬師遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代土坑。奈良・平安時代竪穴建物7棟。4
83	生原諷訪遺跡	○	○	○	○	○	○	平安時代竪穴建物2棟、理上にAs-Bを含む大溝。4
84	中新田遺跡	○	○	○	○	○	○	奈良・平安時代竪穴建物16棟他。4
85	生原の内出							詳細不明。5
86	生原・天神前遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳基の周溝。平安時代竪穴建物8棟。50
87	全徳森遺跡3	○						平安時代竪穴建物1棟。中世地下式坑1基他。51
88	生原・林木遺跡	○	○	○	○	○	○	奈良・平安時代竪穴建物10棟他。52
89	全徳森遺跡	○						平安時代竪穴建物8棟、配石墓1基等。53
90	生原八反畠遺跡	○	○	○	○	○	○	縄文時代中期竪穴建物1棟。奈良・平安時代竪穴建物41棟他。4
91	上芝古墳							埴輪を作らぬ帆立貝形古墳。54
92	矢原塚遺跡							近世耕作遺構1条。55
93	生原田島・大清水遺跡	○	○	○	○	○	○	遺構に伴う遺物はないが、縄文時代から奈良時代の遺物が出土。As-Bより新しい遺構。56
94	寶輪城跡							16世紀末に長野氏、武田氏、織田氏、北条氏と城主が変わり、16世紀末伊豆政が高崎に城を移し廃城となる。充掘調査によりこの間の隣張り変遷が明らかとなった。城廻後の江戸時代遺物も一定量出土している。57
95	東明屋の野							詳細不明。5
96	原中内出							詳細不明。5
97	下善地の内出							詳細不明。5
98	金敷平・長者久保遺跡	○	○					縄文時代中期の遺物包含層。7世紀の古墳1基。58
99	京塙古墳							埴形・規模不明。44
100	原山古墳群							無名1号墳から無名13号墳は埴形・規模不明。44
101	車持塚古墳							埴形・規模不明。横穴式石室。44
102	街道東古墳群							1号墳、2号墳共に箱式横状石室。44
103	橋山古墳							円墳、理葬施設不明。44
104	行人塚古墳							高崎市指定史跡。20mの方墳。44
105	本田古墳群							無名1号墳、無名2号墳は埴形・規模不明。44
106	柏木沢中沢遺跡	○						縄文時代中期の竪穴式遺構1基、土坑。59
107	東谷古墳群							円墳。44
108	柏木沢下ノ原Ⅰ遺跡							1次古墳、2次古墳内埴形複数不明。44
109	柏木沢下ノ原古墳群							1から3号墳、円墳、両袖形横穴式石室。44
110	柏木沢遺跡							柏木沢遺跡群向南5号墳1号墳、直径10m円墳。横穴式石室。44
111	西芝遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代竪穴建物1棟。平安時代竪穴建物6棟。近世溝、土坑等。60
112	麻干原遺跡	○	○	○	○	○	○	古墳時代竪穴建物14棟。平安時代竪穴建物14棟。中世渡来鉢10枚がまとまつて出土。38

番号	遺跡名	時代					主な内容	主な文献			
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世		
113	稚現陵古墳			○						直径25mの円墳。前期から中期古墳と推定されている。	38
114	蹴屋敷道路		○	○	○					弥生時代竪穴建物4棟。古墳時代竪穴建物12棟、韓式系土器出土。平安時代竪穴建物5棟。平安時代方形区画構造、削印出土。	38
115	道場Ⅱ遺跡		○	○	○					弥生時代竪穴建物2種。古墳時代竪穴建物5種。平安時代竪穴建物4種。	38
116	道場Ⅲ遺跡		○	○	○					古墳時代竪穴建物7種。平安時代竪穴建物6種。	38
117	道場遺跡				○					平安時代竪穴建物5種他。	38+61
118	本郷の堀・七曲E号墳(本郷稻荷塚古墳)			○						古墳蛇喰(久留馬村18号墳)。全長33m。6世紀前半の帆立貝形古墳。	38
119	本郷の堀・七曲古墳群			○						脇跡を含め13基。内1基は本郷稻荷塚古墳。調査された3基は7世紀代の築造。	38+62
120	本郷大塚古墳			○						全長33mの前方後円墳。主体部は竪穴式石室、内花文鏡出土。4世紀前半の築造。	38
121	しじみ塚古墳			○						直径20mほどの円墳。7世紀前半の築造。	38
122	小白塚古墳				○					25mほどの方墳。7世紀後半の築造と推定。	38
123	蹴屋敷Ⅱ遺跡		○	○	○					弥生時代竪穴建物1棟。古墳時代竪穴建物10棟、古墳1基。平安時代竪穴建物19種。	38
124	供養塚道路		○	○	○					弥生時代後期遺物出土。古墳時代竪穴建物7種。平安時代竪穴建物1種。	38

周辺の遺跡参考文献

- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019「下芝内出畠遺跡 和田山天神前2遺跡」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2022「上大島御伊勢道跡 葉師道路 犬行道跡」
- 高崎市教育委員会2008「下芝五反田遺跡・下芝萬行道跡」
- 箕郷町教育委員会1988「海行A・B遺跡」
- 群馬県教育委員会1988「群馬県の世界遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998「下芝五反田遺跡古墳時代編」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999「下芝五反田遺跡奈良平安時代以降編」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998「下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡」
- 高崎市教育委員会1989「浜津北遺跡」
- 高崎市教育委員会1990「行力道跡群 楠名社道路」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994「行力春名社遺跡」
- 高崎市教育委員会1988「長野北部遺跡群 一丁田、榛名古社遺跡」
- 高崎市教育委員会1988「道場遺跡群」
- 高崎市教育委員会1988「道場遺跡群(Ⅱ) 谷津・道場道路」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996「前川遺跡群」
- 高崎市史記述委員会1996「新編高崎市史資料編3 中世Ⅰ」
- 高崎市教育委員会1979「矢島遺跡・御布邑遺跡」
- 高崎市教育委員会1986「長野北部遺跡群 六反田・中屋敷(Ⅱ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1984「長野北部遺跡群 江原(Ⅰ)・中屋敷(Ⅱ)・上屋敷(Ⅰ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1983「長野北部遺跡群 中屋敷(Ⅰ)・殿田清水(Ⅰ)・舞台(Ⅰ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1984「舞台(Ⅱ)・清水(Ⅱ)遺跡」
- 箕郷町教育委員会1983「下芝・原遺跡」
- 高崎市教育委員会1985「長野北部遺跡群 中屋敷(Ⅰ)・舞台(Ⅲ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1987「長野北部遺跡群 水口替戸・石田遺跡」
- 高崎市教育委員会1985・1986「長野北部遺跡群 北新波の砦(古城Ⅱ・Ⅲ)」
- 高崎市教育委員会1982「北新波遺跡」
- 高崎市教育委員会1986「菊地道路群(Ⅳ) 石神・五反田(Ⅱ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1984「菊地道路群(Ⅴ) 上野前(Ⅰ)・大明神(Ⅰ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1985「菊地道路群(Ⅴ) 上野前(Ⅱ)・大明神(Ⅱ)・五反田(Ⅰ)遺跡」
- 高崎市史記述委員会1999「新編高崎市史資料編」 原始・古代
- 高崎市教育委員会1982「菊地道路群(Ⅱ)」
- 高崎市教育委員会1981「菊地道路群(Ⅰ)」
- 高崎市教育委員会1983「菊地道路群(Ⅲ)」(当貝川・蘿原道路)
- 高崎市教育委員会2008「和田山古墳群」
- (群馬県埋蔵文化財調査事業団1999「和田山天神前遺跡」)
- (群馬県埋蔵文化財調査事業団1997「白川傘松遺跡」)
- (群馬県埋蔵文化財調査事業団2000「白川草坂遺跡 白岩浦久保遺跡」)
- 群馬県記念監査委員会2010「椎名町誌資料編」 原始・古代
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「茅畠遺跡・晚上I道路」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「年報」37
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「年報」36
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021「高浜天狗原道路」
- (群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「富岡竹ノ内・和田山寺久保遺跡」)
- 群馬県教育委員会2017「古墳紀観」
- 群馬町教育委員会1983「保渡田Ⅲ遺跡調査概報」
- 群馬町教育委員会1984「保渡田IV遺跡調査概報」
- 群馬町教育委員会1988「保渡田原沖前・皿掛遺跡」
- 高崎市教育委員会2009「上芝・西金沢遺跡」
- 箕郷町教育委員会1986「生原・善龍寺前遺跡」
- 高崎市教育委員会2010「生原・天神前遺跡」
- 高崎市教育委員会2018「全德森遺跡3」
- 高崎市教育委員会2009「生原・桂木遺跡」
- 高崎市教育委員会2009「全德森遺跡」
- 箕郷町教育委員会1975「真野町誌」
- 高崎市教育委員会2017「矢原塚越遺跡」
- 箕郷町教育委員会1982「生原田山・大清水遺跡」
- 高崎市教育委員会2008「史跡筑摩城跡」
- 箕郷町教育委員会1983「金教寺・長者久保遺跡」
- 高崎市教育委員会2021「柏木浜中沢遺跡」
- 群馬町教育委員会1991「西芝・中道・押出・葉師道路・毘沙門遺跡(Ⅰ)」
- 群馬町教育委員会1986「道場遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990「本郷の堀古墳群」
- 田口一郎 1986「群馬県下芝・谷ヶ古墳」『日本考古学年報39』日本考古学会

第3章 下芝上田屋遺跡

第1節 基本層序

下芝上田屋遺跡は北陸新幹線建設に伴う事前調査として平成5年から6年に発掘調査が実施され、平成10年に発掘調査報告書が刊行されている。この中で1区から3区の調査区において第1面As-B混土、第2面As-B下、第3・4面Hr-FP泥流中の遺構面が報告され、このうちの3区が隣接地であった。このため、調査時から今回報告する地点を4区と呼称している。したがって、本報告に1区から3区が存在しないことに御留意願いたい。

基本層序は以下の通りであり、図中の土層断面に基本土層が存在する場合はこれを用いて記載しているので、層厚は挿図を確認していただきたい。

- I層 表土 耕作土、造成客土
- II層 暗褐色砂質土(10YR3/3) As-B混土
- III層 黄灰褐色粘質土(10YR4/2) 水田耕作土か
- IV層 As-B
【本層下が第1面】 As-Bで埋もれた溝を確認。
- V層 暗褐色粘質土(10YR3/4) 水田耕作土
- VI層 にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)と灰黄褐色シルト(10YR4/2)の砂の互層 Hr-FP混
- VII層 砂礫 Hr-FP混
※北陸新幹線下芝上田屋遺跡の5層に相当
- VIII層 黄灰褐色シルト(10YR4/2) Hr-FP混
【本層下が第2面】 水田を確認
- IX層 黒褐色粘質土(10YR2/3) やや砂質 2面で確認された水田の耕作土
- X層 砂礫 Hr-FP混
- XI層 灰黄褐色シルト(10YR4/2) 砂混 Hr-FP混
【本層下が第3面】 煙を確認
- XII層 黒褐色粘質土(10YR3/1) 3面で確認された煙の耕作土
- XIII層 XII層に砂混含む
- XIV層 砂礫
- XV層 砂・鉄分沈着
- XVI層 XVI層より粒粗い

XV層 暗褐色粘質土(10YR4/1)と黒色粘質土(10YR3/1)と

砂の互層

XVI層 黒粘質土(10YR2/1)と砂の互層

XVII層 灰褐色シルト(10YR4/1)と砂の互層

XVIII層 砂

XIX層 灰褐色粘質土(10YR4/1)と砂の互層

XX層 黒褐色粘質土(10YR3/1)

XXI層 砂 やや青い

XXII層 砂礫 基盤層

XXII層以下は3面下の遺構面確認のため設定した深掘りトレーナーで確認した土層であり、3面以下において遺構面は確認できなかった。

なお、XXII層以下は湧水のため確認し得なかった。

第2節 確認された遺構と遺物

(1) 4区1面の遺構(第6図、P.L.1)

概要 平成5年度、北陸新幹線建設時(1区から3区)の1面は、As-B混土を地山とするが、今回の調査(4区)では確認されなかった。このため、4区ではAs-B下で確認した遺構面を1面としている。As-B下では水田の畔は確認できず、2条の溝が確認できたのみである。

調査区内は溝付近が低く窪み、溝の両側が高くなっている。また、傾斜も水田面にしては起伏が大きく急であることから、調査区内に水田が築かれていた可能性は低いと考えられる。加えて、隣接する北陸新幹線建設時調査の3区でもAs-B下では、水田・畑の「痕跡は認められない」と報告されている。

第9図に4区出土遺物を図示したが、「4区」と注記された江戸時代後期の肥前鏡器皿であり、遺構面には伴わない遺物である。

1号溝(第7・8図、P.L.1・2)

位置 X=42401から42418、Y=-78516から-78535。

重複 2号溝との重複関係は不明。

形状・規模 調査長25mで南北は調査区外に延びる。幅は29cmから70cm、深さは4cmから27cm。南北端の比高差

第3章 下芝上田屋遺跡

は44cmと大きい。

走向 北西から南東方向に蛇行する。

埋没土 降下したAs-Bで埋まる。

出土遺物 細片すら出土していない。

所見 時期はAs-B降下以前で平安時代であろう。走向が直線的でなく、確実に人為的な溝とは言い難い。

(2) 2号溝(第7・8図、P.L.1・2)

位置 X=42404から42415、Y=-78519から-78533。1号溝蛇行部で確認される。

重複 1号溝との新旧関係は不明。

形状・規模 調査長15.5m程で、やや蛇行する。幅は32cmから60cm、深さは3cmから9cmと浅い。南北での底面比高差は29cmで南側が低い。底面の傾斜は地形の傾斜と一致する。

走向 やや蛇行する。

埋没土 降下したAs-Bで埋まる。

出土遺物 細片を含めて皆無である。

所見 1号溝の分流のような位置関係である。1号溝同様にAs-Bで埋もれており、埋没時期の差はないものと判断される。

(2) 4区2面の遺構(水田)(第10・11図、P.L.2)

位置 4区南側

重複 他遺構との重複はない。

形状・規模 調査区が狭小なうえに、調査区内1/3程度での確認にとどまっており、区画形状や規模は不明である。

埋没土 VII層下、FP泥流中の遺構面である。VII層下の黒褐色粘質土を水田耕作土としている。

出土遺物 水田面や水田耕作土中の出土遺物は皆無であった。

所見 確認された西側の区画は南北に長い長方形と推定され、隣接する3区で報告されている形状に似ている。区画形状も把握できない状態のため、水口は確認できない。調査区西側には水田が広がるようであるが、東側は傾斜が急となっていて、水田の広がりは認められない。水田面の傾斜は北西から南東に低くなっている。北側は耕作土下の泥流が露出しているが、境まで畔が存在しており、水田は更に広がっていたと考えられる。しかし、

等高線が泥流露出箇所を閉むような形態を示しており、大きく北に広がる可能性は低いものと推測される。

(3) 4区3面の遺構(畑)(第12・13図、P.L.3・4)

位置 4区北側と東側の角を除く全体で確認された。

重複 3面河道と重複する。河道によって畑のサクが壊されている状態が見受けられ、畑が古いものと解される。

形状・規模 畦は低く山形を呈するが、頂部が平坦な箇所も見受けられ、上部が削削されている可能性がある。畠間は緩い「U」字状を呈している。最長の調査長は13.5mであるが、北側は河道で壊される。南側は調査区外に延びている。畠と畠間の比高差は小さく、断面形状は緩やかなカーブを描いている。

走向 基本的に北東から南西方向に走向するが、途中は緩やかに蛇行する。東西の中央付近で畠の幅が広い箇所は、南側で畠が二つに分岐する箇所が見受けられる。

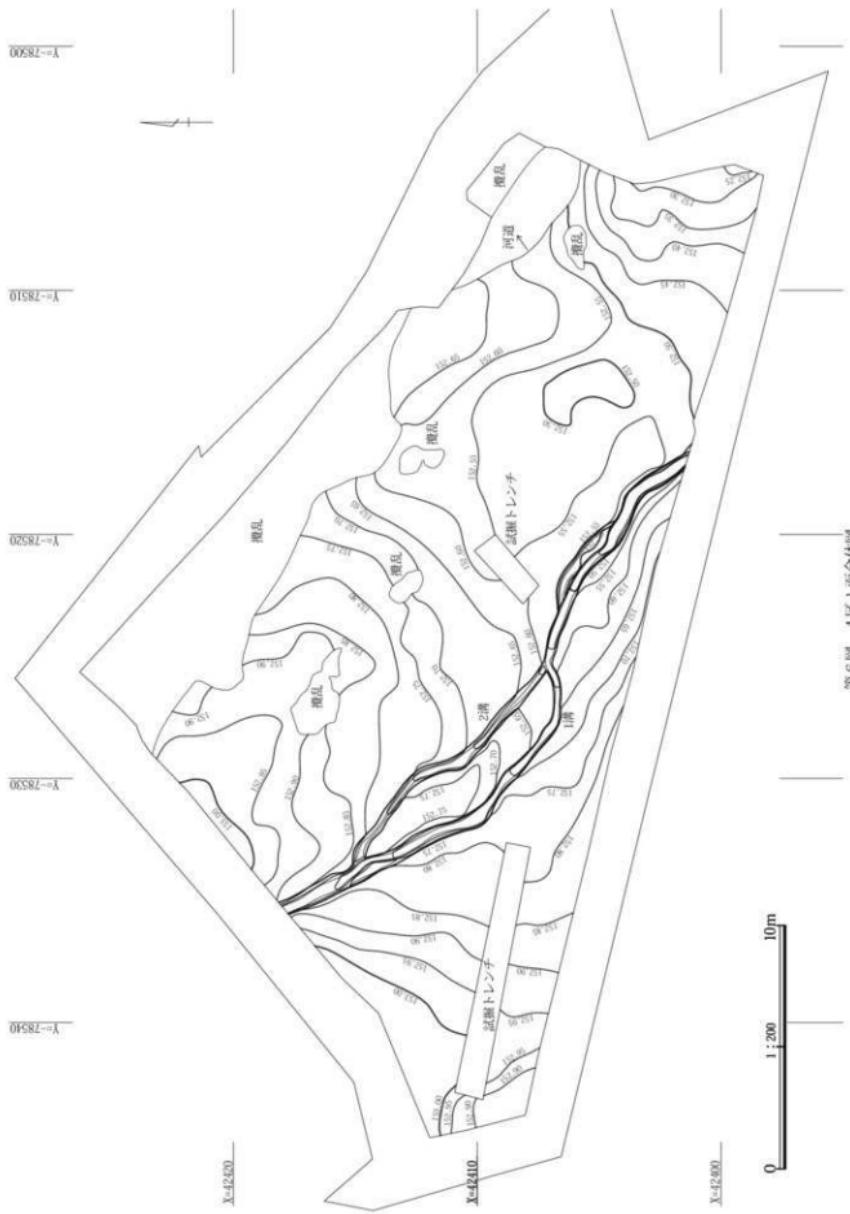
埋没土 基本土層XII層に覆われ、基本土層XIII層を耕作土とする。

出土遺物 確認面、耕作土中共に出土遺物は皆無である。

所見 区画を示すような道や畠、畠間の単位境が認められず、ひとつの画内を調査したものと考えられる。

(4) 遺構外出土遺物(第9図、P.L.4)

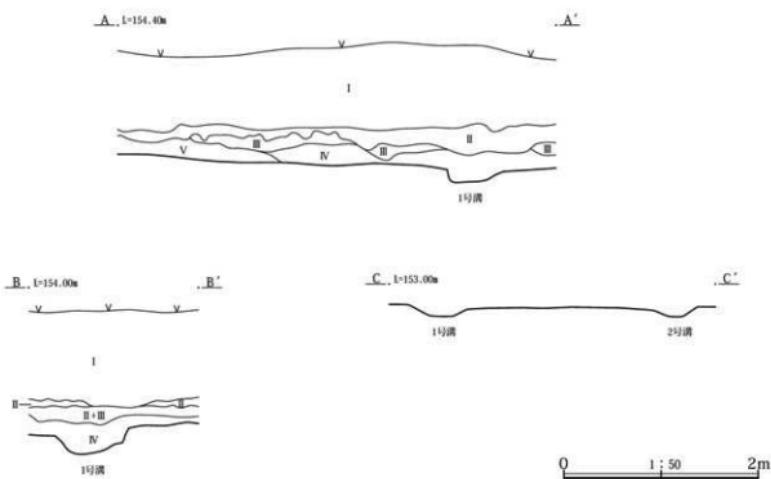
出土位置、出土層位ともに不明である。肥前磁器の染付皿で18世紀末から19世紀中葉であろう。



第6図 4区1面全体図



第7図 4区1号溝、2号溝平面図

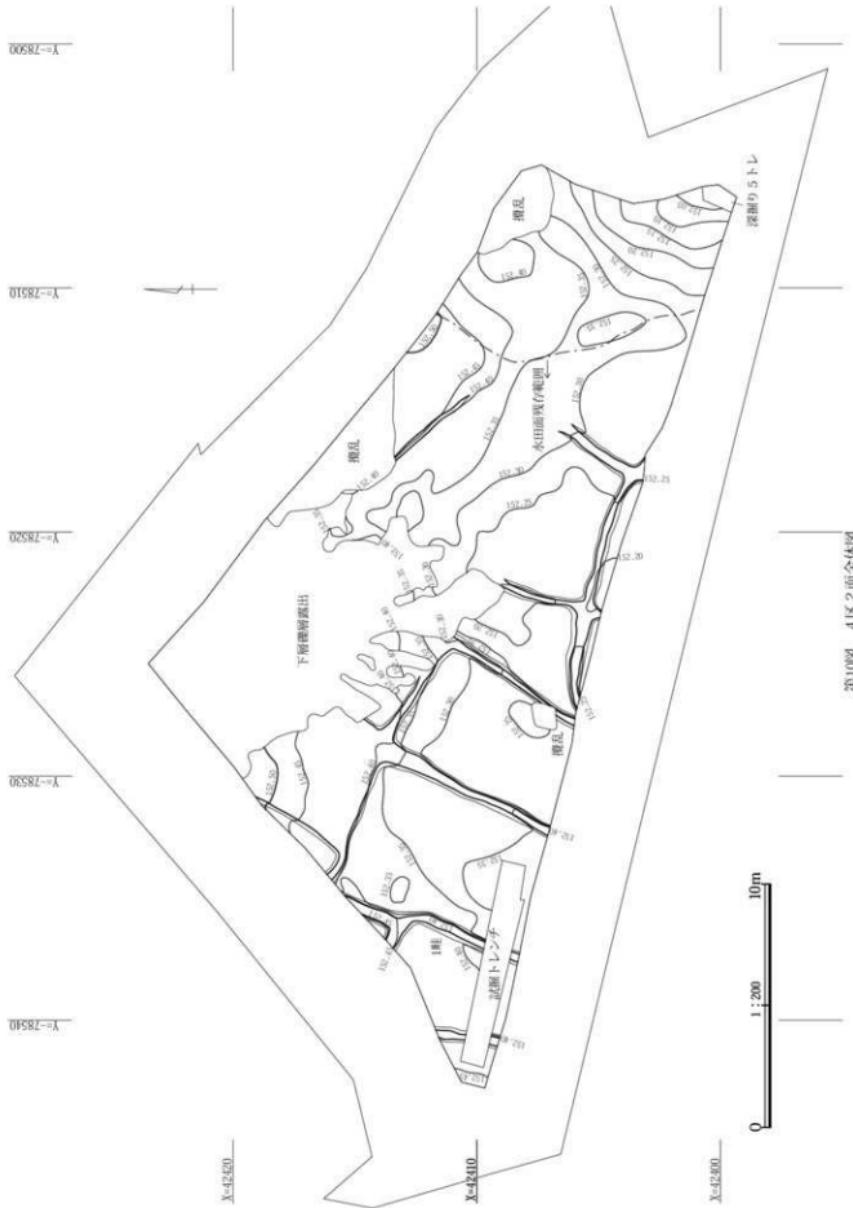


- I面 1号溝 A・B
 I 表土 稲作土、造成客土。
 II 暗褐色砂質土(10YR3/3) As-B含む。北陸新幹線下芝上田屋遺跡の2層に相当。
 III 灰褐色粘質土(10YR4/2) 水田耕作土か。
 IV As-B 本層下が第1面、北陸新幹線下芝上田屋遺跡の3層に相当。
 V 暗褐色粘質土(10YR3/4) As-B下水田耕作土。北陸新幹線下芝上田屋遺跡の4層に相当。

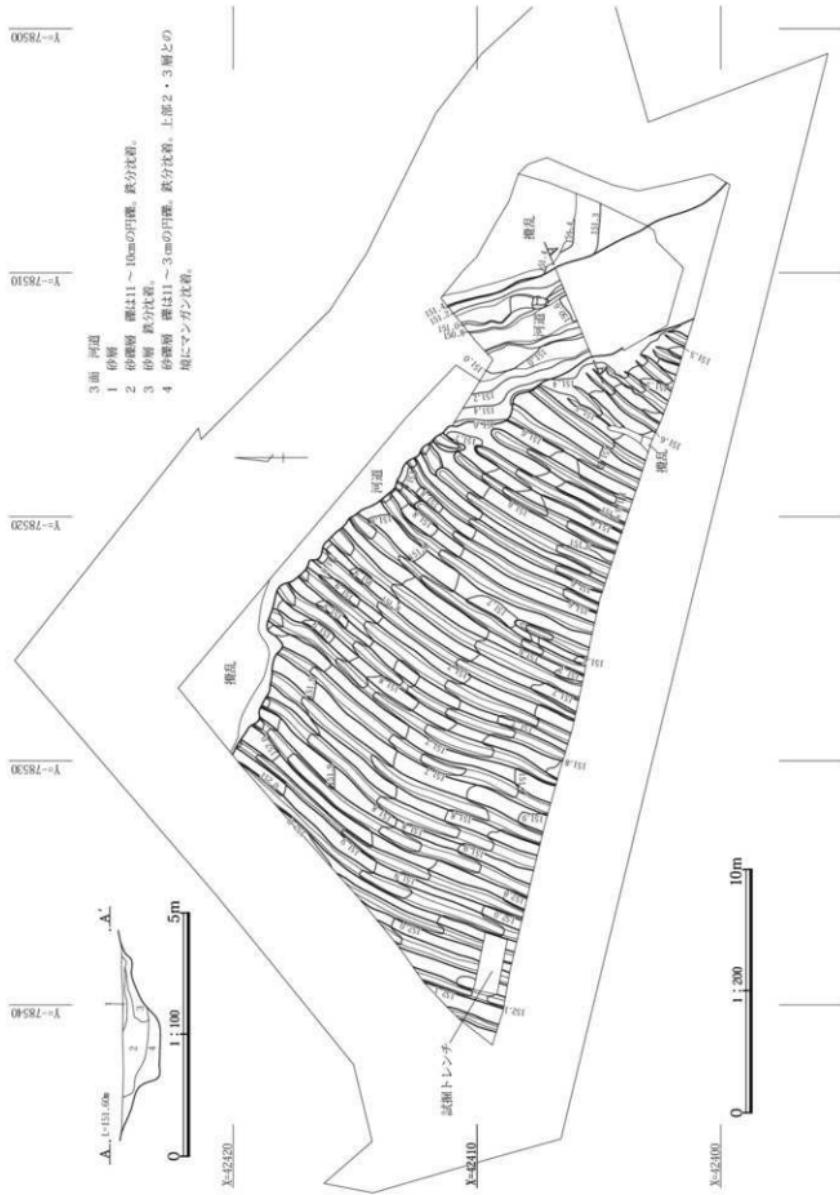
第8図 4区1号溝、2号溝断面図



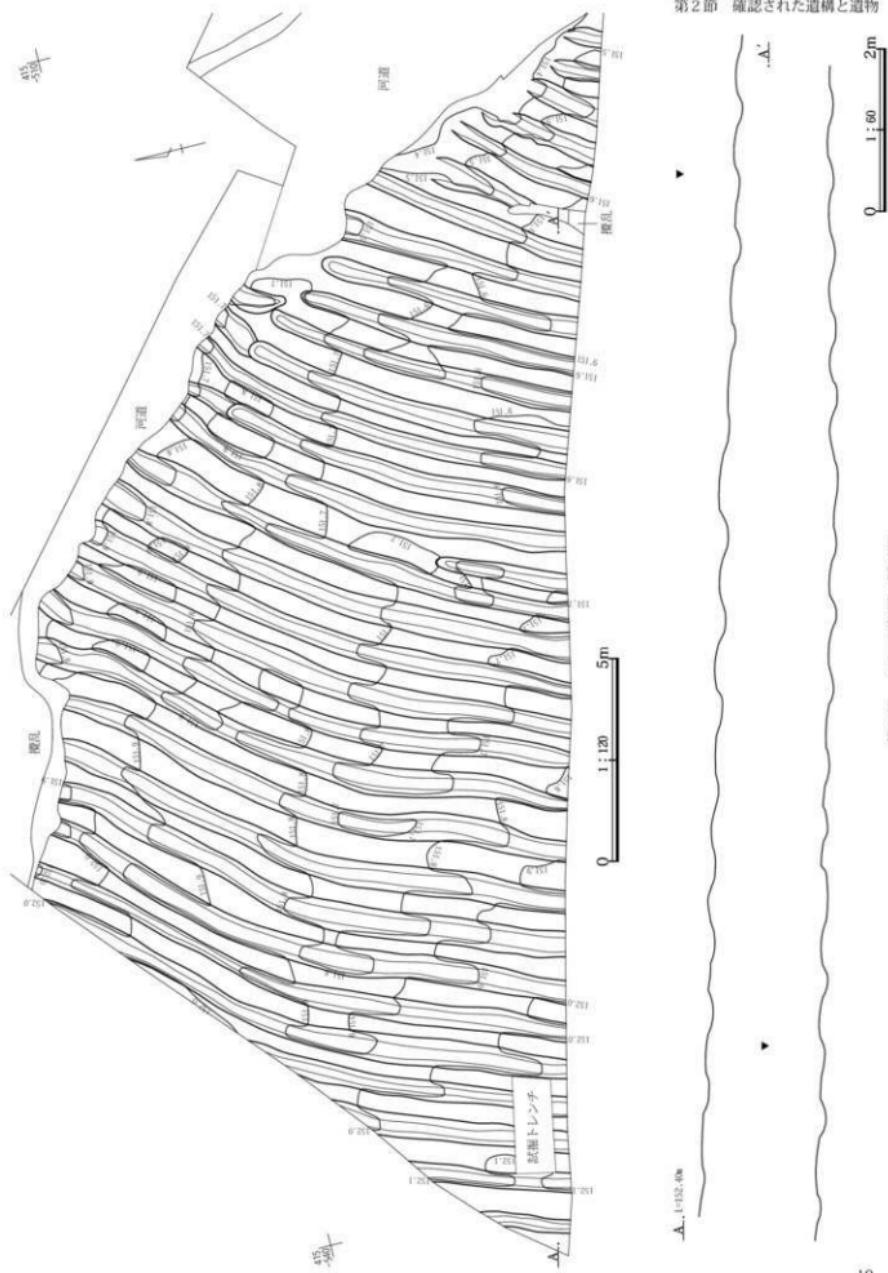
第9図 4区遺構外出土遺物図



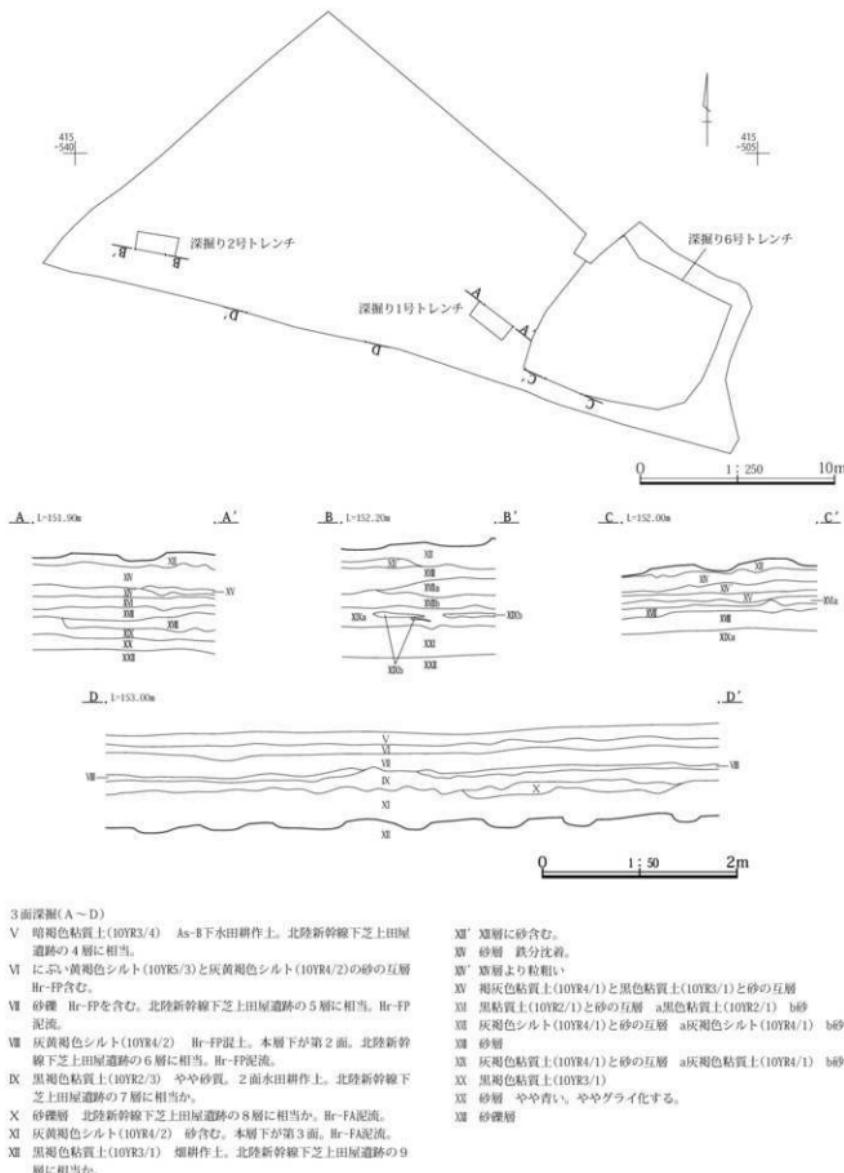




第12図 4区3面全体図、河道断面図



第13圖 4區3面烟平・断面圖



第14図 4区3面基本土層と深掘りトレンチ配置図、断面図

第3節 調査のまとめ

下芝上田屋遺跡が位置する白川扇状地は、As-B下水田が広がるとともに、As-B下水田以前には棟名山の噴火に伴う泥流が幾度となく押し寄せた地域である。また、この泥流中においても水田や畠等が確認されており、洪水が落ち着いた時に居住や耕作が行われていたことが判明している。

今回の下芝上田屋遺跡4区の調査においても、水田は確認できなかったが、降下したAs-B下面において溝が確認されている。As-B下水田は隣接する北陸新幹線の下芝上田屋遺跡3区でも確認されておらず、現早瀬川右岸には存在しなかった可能性が高くなったと考えられる。

基本土層Ⅶ層・Ⅷ層(FP泥流)下では水田が確認され、北陸新幹線の3区3面で確認された水田面に相当するものと考えられる。4区3面で確認された畠は北陸新幹線の3区4面に相当し、畠が北に広がることが確認された。

これら泥流間で確認された水田や畠の年代は、年代を示す遺物が確認されておらず不明であり、今回の調査においても調査範囲が狭小なため明らかにし得なかった。この点に関しては、今後の調査・研究を期待したい。

第4章 上芝西龍之宮遺跡

第1節 基本層序

- I層 表土 現耕作地として利用される。また造成客土から構成される。
- II層 As-B混土 砂質褐色土。As-Bをまばらに含む。
- III層 As-B 浅間山噴火による降下火山灰層。部分的に確認。
- IV層 黒褐色土 12世紀初頭の地表面。耕作面が存在する。Hr-FPが混入する層。
- V層 棚名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)混土
6世紀前半、棚名山二ツ岳噴火による降下軽石を含む泥流層。黒褐色土中に数cm～十数cmのHr-FPを含む
- VI層 地山層
黄褐色の砂礫層。大型の礫を含み掘削限界深度まで続き、以下は確認できなかった。
- 基本層序は以上であるが、調査年度によって若干異なるため、挿図内の土層注記に基本土層も併記した。

第2節 確認された遺構と遺物

(1) 概要(第15図)

調査は構造物や工事工程等の関係から小区画4区画の調査となった。この4つの区画のうち、2カ所は同時に調査しているため、異なる時期に調査した区画に1区から3区の調査区名を付した。これは、調査区名を付すことにより、写真等の遺構説明をわかりやすくするためにある。

1面は基本的にAs-B下面であるが、As-Bの残存状態が不良なため、As-B下水田耕作土上面で確認した遺構を1面として調査したものである。したがって、As-B降下後の溝とピットが主体であり、As-B下の遺構はわずかに確認された畑と水田面のみである。また、As-B降下後の遺構も土地改良時に削平されていて、遺存状態は不良であった。

2面はFP泥流上面で確認した遺構面で、3区のみで確

認された。遺構としては、6号から17号のピット12基と井戸1基である。出土遺物は非常に少なく、調査区は古代の集落域ではないようである。

(2) 1面の遺構と遺物

① 溝

1号溝(第18図、P.L.8)

位置 X=42425から42430、Y=-78501から-78506。1区の西側で確認され、調査区外に延びる。

重複 重複する遺構はない。

形状・規模 調査長4.7m、幅1.95mから2.3m、深さ15cmから36cm、底面の比高差は19cm南西側が低い。南西側は中央が大きく窪む断面形状となっており、溝の形成に流水が関与していた可能性が高いであろう。

走向 調査できた範囲が狭く、走向は不明であるが、1区北側の調査区で確認されず、屈曲している可能性が高い。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土で埋まっている。

出土遺物 細片すら出土しておらず、皆無である。

所見 As-B降下以降の所産であること以外不明である。

2号溝(第19図)

位置 X=42435から42436、Y=-78504から-78505。1区北西隅に位置する。

重複 調査できた範囲内に重複遺構は認められない。

形状・規模 東側の立ち上がり部分が一部確認できたのみで、形状や規模は不明である。

走向 一部の調査であり不明。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 細片すら出土しておらず、皆無である。

所見 人為的なものか否かを含め不明である。1号溝の走向方向からすると、1号溝の一部を確認した可能性も考えうる。

3号溝(第19図、P.L.8・9)

位置 X=42432から42440、Y=-78497から-78500

重複 4号溝、8号溝と交差するが、新旧関係は不明である。

ある。

形状・規模 調査長は8mであり、南北は調査区外に延びる。ただし、1区南側の調査区では確認されていない。幅は40cmから78cm、深さは5cmから19cm、底面の比高差は18cmで南側が低い。

走向 走向は直線的である。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土で埋まっている。

出土遺物 細片すら出土しておらず、皆無である。

所見 底面に耕作具痕と推定される半円状の窪みが連続して認められる。時期はAs-B降下以降であること以外特定できない。

4号溝a(第19図、P.L.9)

位置 X=42437から42439、Y=-78494から-78501。試掘トレンチを境に溝の位置にズレが生じており、トレーニング以西を「a」、トレーニング以東を「b」と呼称した。

重複 3号溝、8号溝と交差するが、新旧関係は不明である。

形状・規模 調査長6.3m、幅27cmから58cm、深さ12cmから16cm、底面の比高差は1cmとほぼ水平である。

走向 東西方向に走向し、やや湾曲する。西側は調査区外に延びる。

埋没土 As-Bを多量に含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 細片すら出土しておらず、皆無である。

所見 時期はAs-B降下以降であること以外特定できない。

4号溝b(第19図、P.L.9・14)

位置 X=42434から42437、Y=-78490から-78493

重複 重複する遺構はない。

形状・規模 底面の比高差は3cmとほぼ水平である。

走向 北西から南東に直線的に走向する。

埋没土 As-Bを多量に含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 細片すら出土しておらず、皆無である。

所見 時期はAs-B降下以降であること以外特定できない。

5号溝(第20図、P.L.9・14)

位置 X=42447から42452、Y=-78468から-78488。1区北東部分の傾斜変換点に位置する。

重複 重複する遺構はない。浅い溝が分岐するように存在するが、同一の溝と判断した。

形状・規模 調査長22.2m、幅25cmから56cm、深さは13cmから56cmである。

走向 直線的に走向し東側でほぼ直角に屈曲する。

埋没土 砂とシルトで埋没しており、流水の影響で埋没したものと推定される。

出土遺物 煙管の雁首を意図的に潰した可能性のある、所謂雁首銭(第20図1、P.L.14)が出土している。煙管は江戸時代の所産と考えられ、1面で確認された遺構内から出土した年代を示す唯一の遺物である。

所見 等高線から判断すると、傾斜変換線に沿うように走向しており、耕地等の区画溝であった可能性がある。

6号溝(第21図、P.L.9)

位置 X=42434から42457、Y=-78464から-78469。1区東側と2区東側に位置する。

重複 確認された範囲に重複する遺構はない。

形状・規模 1区と2区で確認され、調査長は22.3mで南北は更に調査区外に延びる。幅44cmから63cm、深さ1cmから18cmで、底面の比高は8cm南側が低い。

走向 中間付近で湾曲する以外は直線的である。

埋没土 As-Bを多量に含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 細片すら出土しておらず、皆無である。

所見 As-B層を掘り込んでおり、時期はAs-B降下以降であること以外特定できない。

7号溝(第21図、P.L.10)

位置 X=42442から42449、Y=-78463から-78466

重複 重複する遺構はない。

形状・規模 調査長7.8m、幅29cmから44cm、深さ1cmから8cm、底面の比高差は33cmと大きく、南側が低い。

走向 やや直線的である。

埋没土 As-Bを多量に含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 細片すら出土しておらず、皆無である。

所見 3号溝と同様、底面に半円形状の耕作具痕が並ぶ。耕作具痕内には純層に近いAs-Bが確認できるが、フォールユニットが平面で確認できる状態が観察され、As-B降下後の作業痕跡と判断される。

8号溝(第19図)

位置 X=42437から42438、Y=-78498から-78501。

重複 3号溝と交差するが、新旧関係は不明である。

形状・規模 調査長3.24m、幅44cmから63cm、深さ6cmから14cmで、底面の比高は南側が6cm低い。

走向 西側が屈曲する。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 細片すら出土しておらず、皆無である。

所見 時期はAs-B降下以降であること以外特定できない。

②水田(第21図、PL11)

位置 I区東側のAs-B降下堆積範囲内に位置する。

区画・形状 幅60cmほどの畔状の高まりが4m確認されたのみであり、区画や規模、形状は不明である。

耕作土 As-B直下のFP泥流を含む黒褐色土を耕作土としている。

所見 全体に土地改良時の削平や重機痕が多く、残存状態が不良であるが、As-B下水田の存在と広がりは確認し得た。

③ピット(第22図)

概要 I区南西部のAs-Bが削平されている箇所で5基のピットがまとまって確認された。埋土がいずれもAs-Bを含む黒褐色土であることから、1面のピット群であると判断される。出土遺物はなく、As-B降下以降の所産であること以外は時期不詳である。

1号ピット(第22図、PL.11)

位置 X=429、Y=-491。

重複 重複する遺構は確認されていない。

形状・規模 長径26cm、短径23cmの平面楕円形を呈する。残存深度は13cmである。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

2号ピット(第22図、PL.11)

位置 X=429、Y=-490。

重複 3号ピットと重複するが、断面観察においても新旧関係を判断することは不可能であった。

形状・規模 長径31cm、短径22cmの平面楕円形を呈し、残存深度は8cmと浅い。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

3号ピット(第22図、PL.11)

位置 X=429、Y=-491。

重複 2号ピットと重複するが、断面観察においても新旧関係を判断することは不可能であった。

形状・規模 長径29cm、短径23cmの平面楕円形を呈し、残存深度は18cmである。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

4号ピット(第22図、PL.11)

位置 X=430、Y=-491。

重複 重複する遺構は認められない。

形状・規模 長径29cm、短径26cmの平面楕円形を呈し、残存深度は14cmである。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

5号ピット(第22図、PL.11)

位置 X=431、Y=-491。

重複 重複する遺構は確認されていない。

形状・規模 長径35cm、短径31cmの平面楕円形を呈し、残存深度は11cmである。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

(3) 2面の遺構と遺物

①概要(第15図、PL.12)

2面とした遺構は1号井戸と6号から17号ピットであり、すべて3区の中央から東部の範囲に偏在している。この箇所にはAs-B層が存在せず、1面の遺構が確認されていない箇所である。そのため、層位的に2面の遺構面を確認できているわけではない。しかし、埋土にAs-Bを含まず、泥流上面を掘り込んでいることから2面と判断した。

②ピット

6号ピット (第23図、P L.12)

位置 X = 428、Y = -480。

重複 重複する遺構は認められない。

形状・規模 長径17cm、短径16cmの平面円形を呈し、残存深度は8cmと浅い。底面の断面形状は「U」字状を呈する。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

7号ピット (第23図、P L.12)

位置 X = 427、Y = -483。

重複 重複する遺構は認められない。

形状・規模 長径24cm、短径19cmの平面楕円形を呈し、残存深度は23cmである。底面形状はやや平坦である。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

8号ピット (第23図、P L.12)

位置 X = 426、Y = -483。

重複 重複する遺構は認められない。

形状・規模 長径22cm、短径20cmの平面楕円形を呈し、残存深度は9cmである。底面の断面形状は「U」字状を呈する。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

9号ピット (第23図、P L.13)

位置 X = 425、Y = -484。

重複 重複する遺構は認められない。

形状・規模 直径22cmの平面円形を呈し、残存深度は19cmである。底面形状はやや平坦である。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

10号ピット (第23図、P L.13)

位置 X = 425、Y = -484。

重複 重複する遺構は認められない。

形状・規模 直径26cmの平面円形を呈し、残存深度は10cmである。底面形状はやや平坦である。

埋没土 土層断面観察記録がなされていないが、2面のピットであることから、砂を含む黒褐色土で埋まっていたと考えられる。

出土遺物 出土していない。

11号ピット (第23図、P L.13)

位置 X = 426、Y = -484。

重複 重複する遺構は認められない。

形状・規模 長径26cm、短径19cmの平面楕円形を呈し、残存深度は8cmと浅い。底面形状はやや平坦である。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

12号ピット (第23図、P L.13)

位置 X = 426、Y = -485。

重複 重複する遺構は認められない。

形状・規模 長径38cm、短径31cmの平面楕円形を呈し、残存深度は16cmである。底面形状はやや平坦である。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

13号ピット (第23図、P L.13)

位置 X = 426、Y = -486。

重複 14号ピットと重複するが、断面観察によっても新旧関係は確認できなかった。

形状・規模 直径27cmの平面円形を呈し、残存深度は18cmである。底面の断面形状は「U」字状を呈する。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

14号ピット (第23図、P L.13)

位置 X = 426、Y = -486。

重複 13号ピットと重複するが、断面観察によっても新旧関係は確認できなかった。

形状・規模 長径24cm、短径14cmの平面楕円形を呈し、残存深度は14cmである。底面の断面形状は「U」字状を呈する。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

第4章 上芝西龍之宮遺跡

15号ピット(第23図、P.L.13)

位置 X = 425、Y = -486。

重複 重複する遺構は認められない。

形状・規模 長径22cm、短径19cmの楕円形を呈し、残存深度は12cmである。底面の断面形状は「U」字状を呈する。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

16号ピット(第23図、P.L.13)

位置 X = 425、Y = -483。

重複 17号ピットと重複するが、断面観察によっても新旧関係は確認できなかった。

形状・規模 長径26cm、短径20cmの平面楕円形を呈し、残存深度は16cmである。底面形状はやや平坦である。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

17号ピット(第23図、P.L.13)

位置 X = 425、Y = -483

重複 16号ピットと重複するが、断面観察によっても新旧関係は確認できなかった。

形状・規模 重複により規模と形状は不明であるが、楕円形を呈するものと推定される。残存深度は8cmである。

重複により底面形状は不明である。

埋没土 砂を含む黒褐色土で埋まる。

出土遺物 出土していない。

③井戸

1号井戸(第24図、P.L.12・14)

位置 X = 430、Y = -476。3区中央の北壁際に位置する。

重複 他遺構との重複は認められない。

形状・規模 長軸1.51m、短軸1.49mのやや楕円形を呈し、上半の断面形はすり鉢状、下半は円筒形を呈する。残存深度は94cm。

埋没土 上半のすり鉢状を呈する部分は、礫を充填して埋めているようである。下半の円筒形部分は砂で埋没している。

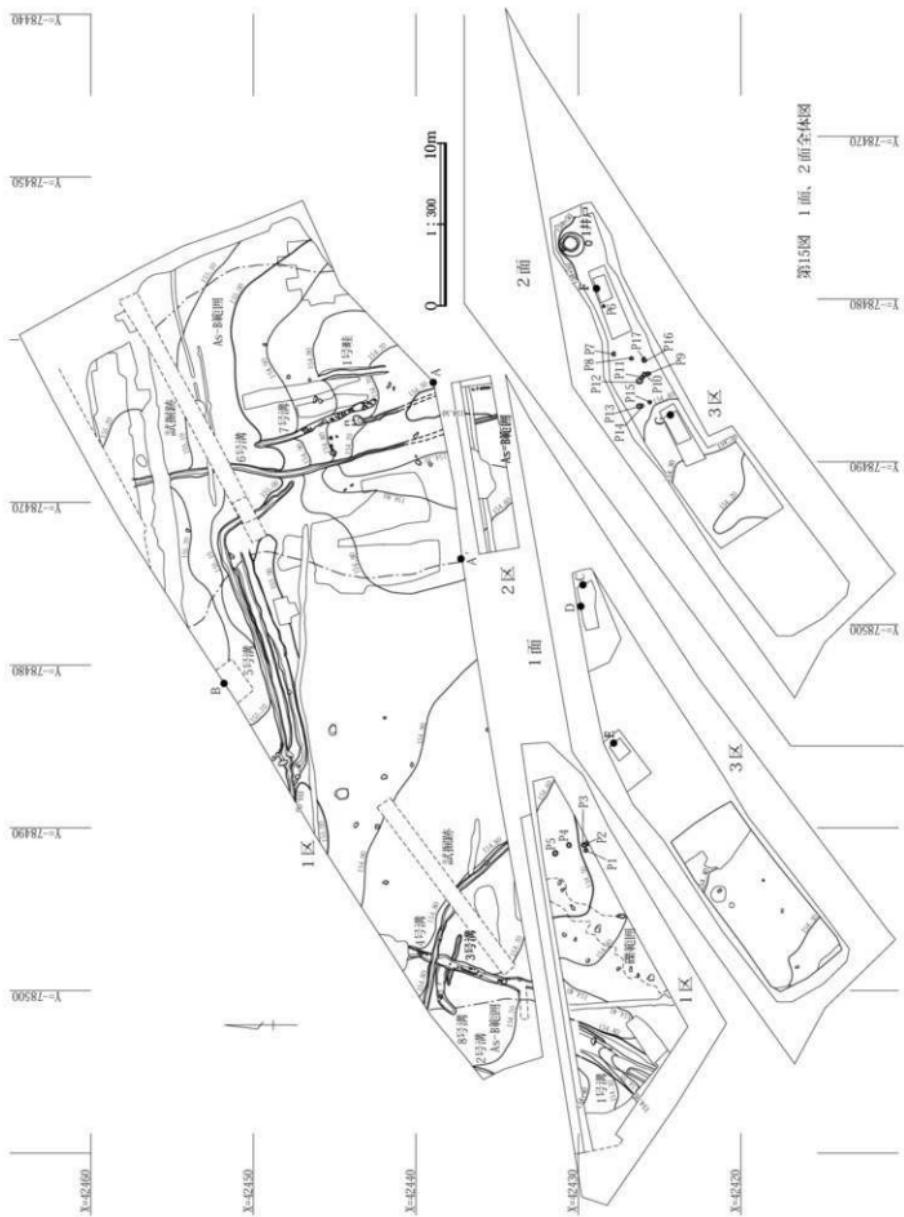
出土遺物 埋土内から須恵器碗の底部(第24図1)が1点のみ出土した。出土遺物は非掲載遺物を含めてこの1点

のみである。

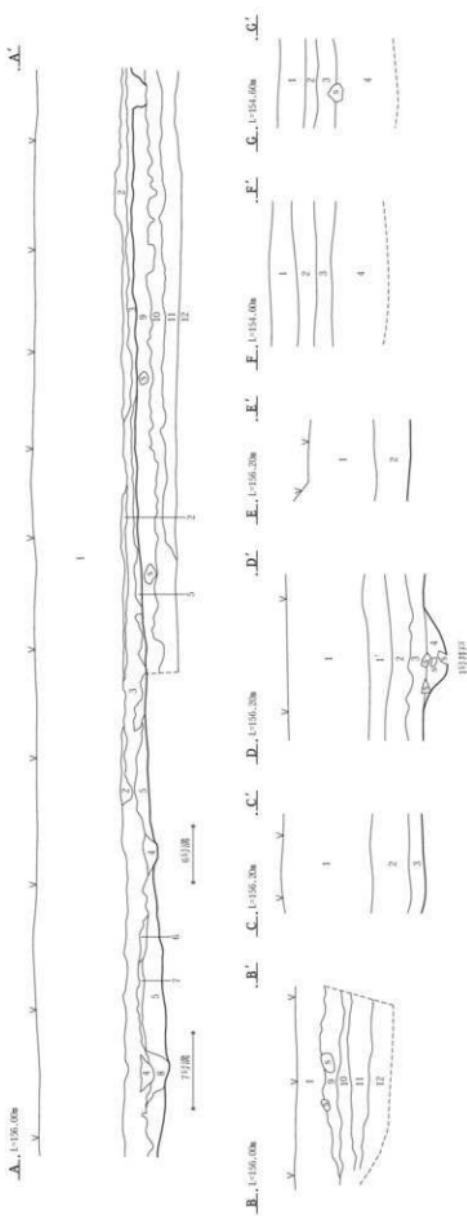
所見 出土遺物から平安時代の井戸と考えられる。調査時の湧水は認められない。なお、須恵器碗の出土層位は不明である。

(4) 遺構外出土遺物(第25図、P.L.14)

遺構外から出土した3点の遺物を図示した。1は須恵器の壺か甕の体部片で外面に叩き目、内面に当て具痕が残る。2は江戸時代の瀬戸・美濃陶器碗の底部であり、内面から高台脇に灰釉を施している。3は江戸時代の肥前産京焼風陶器皿で、内面に鉄絵具で文様を描いた後、内面から高台脇に透明釉を施している。



第15図 1面、2面全体図



A・B

1 黒褐色土(10YR3/3) 表土、園地整備時の盛土。(1層)

2 にぶい黄褐色土(10YRA/3) Hr-FPを含む整備時の盛土。(1層)

3 黑褐色土(10YR2/3) As多く含む。(1層)

4 黑褐色土(10YR3/2) As多量に含む。

5 As-Rh (1層)

6 黒褐色土(10YR3/3) As多量に含む。

7 植物褐色土(7.5YR2/3) シルト混入。

8 黑褐色土(10YR2/2) As多量に含む。

9 黑褐色土(10YR2/2) 第2の層はHr-FPを含む。FP混入。(V弱)

10 黒褐色土(10YR4/6) 粘土2~3cmの砾石(Hr-FP)多く含む。FP混入。(V弱)

11 にぶい黄褐色土(10YRA/3) 砂疊層。純泥。Hr-FP含む。FP混入。(V弱)

12 棕褐色土(7.5YR4/4) 砂層。(V弱)

C・D・E

1 暗灰褐色土(10YR4/1) 園地整備時の盛土。(1層)

2 黒褐色土(10YR2/2) 白色粘土質が混入。黄褐色土強かに含む。(V強)

3 黑褐色土(10YR2/3) 黄褐色土少量含む。黑色粘土少量含む。白色

粘土質含む。(V弱)

4 前掲～黒褐色土(10YR2/2~3/3) φ10~20mmの礫多く含む。

(1号井F)

F・G

1 黄褐色砂質土(10YR5/6) 白色粘土質含む(0~5cm) 黃分僅かに

混入。(V弱)

2 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 小礫多量含む。白色粘土少量含む。黃

分多くに化粧。(V弱)

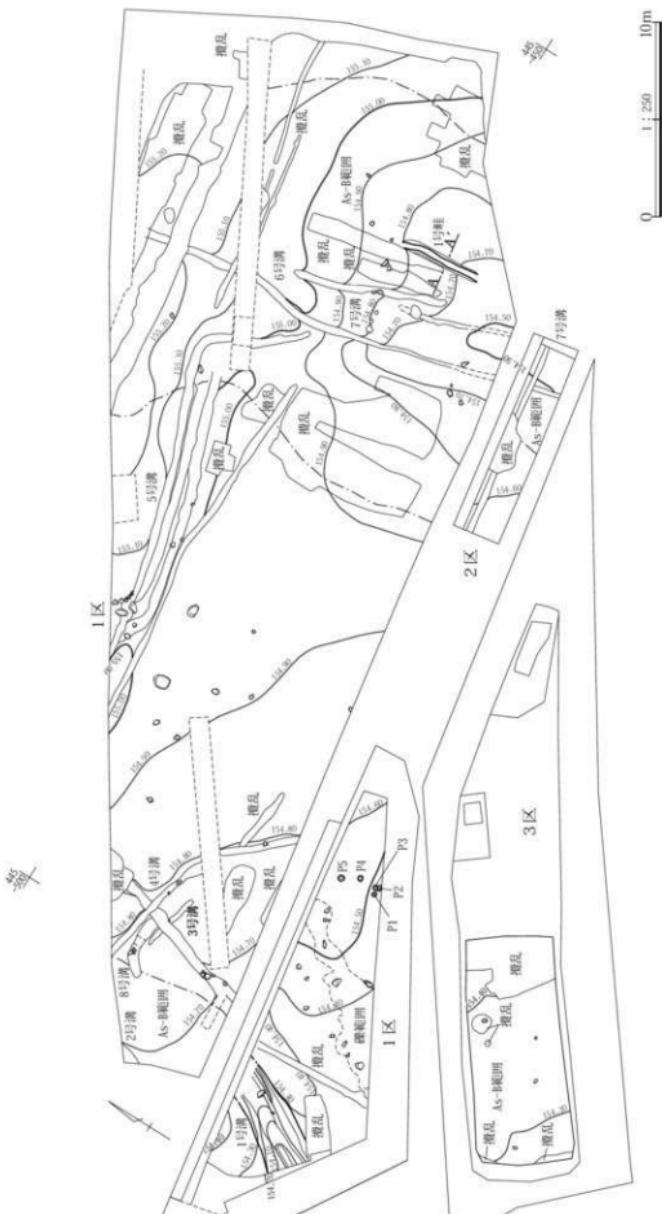
3 黑褐色砂土(10YR3/4) 大小の礫少量含む。互層で粒径の異なる砂

粘土。(V弱)

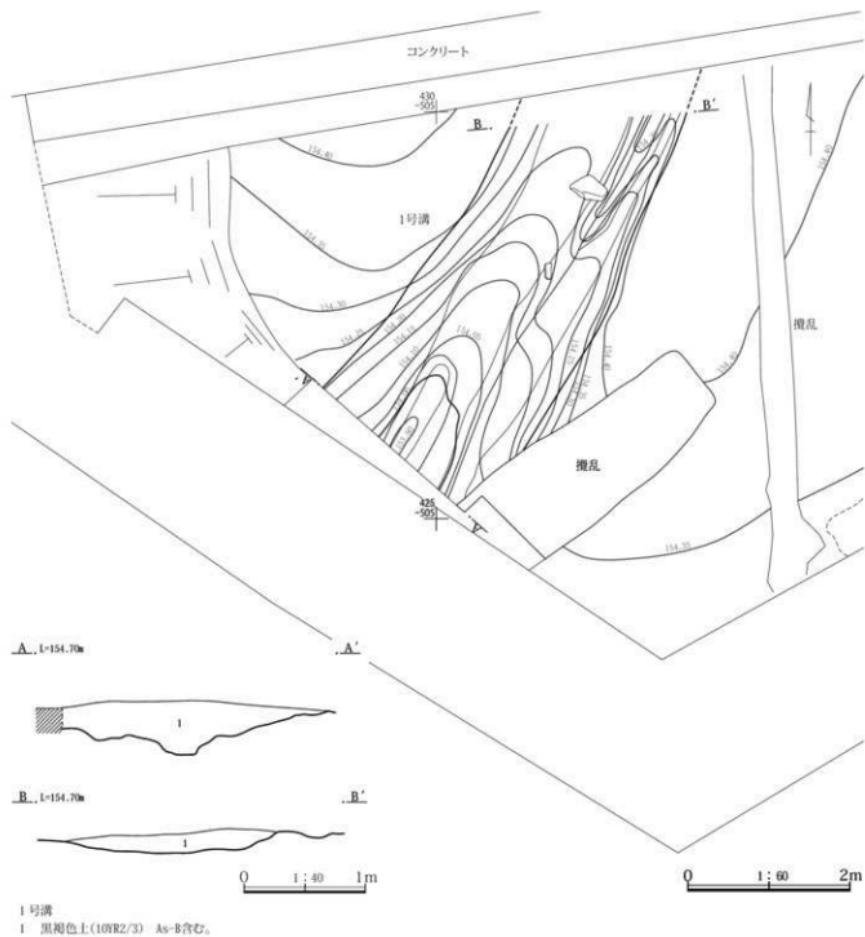
4 棕褐色土(10YR4/6) 黃分少しおよび。(V弱)

0 1:50 2m

第164図 1面、2面断面図

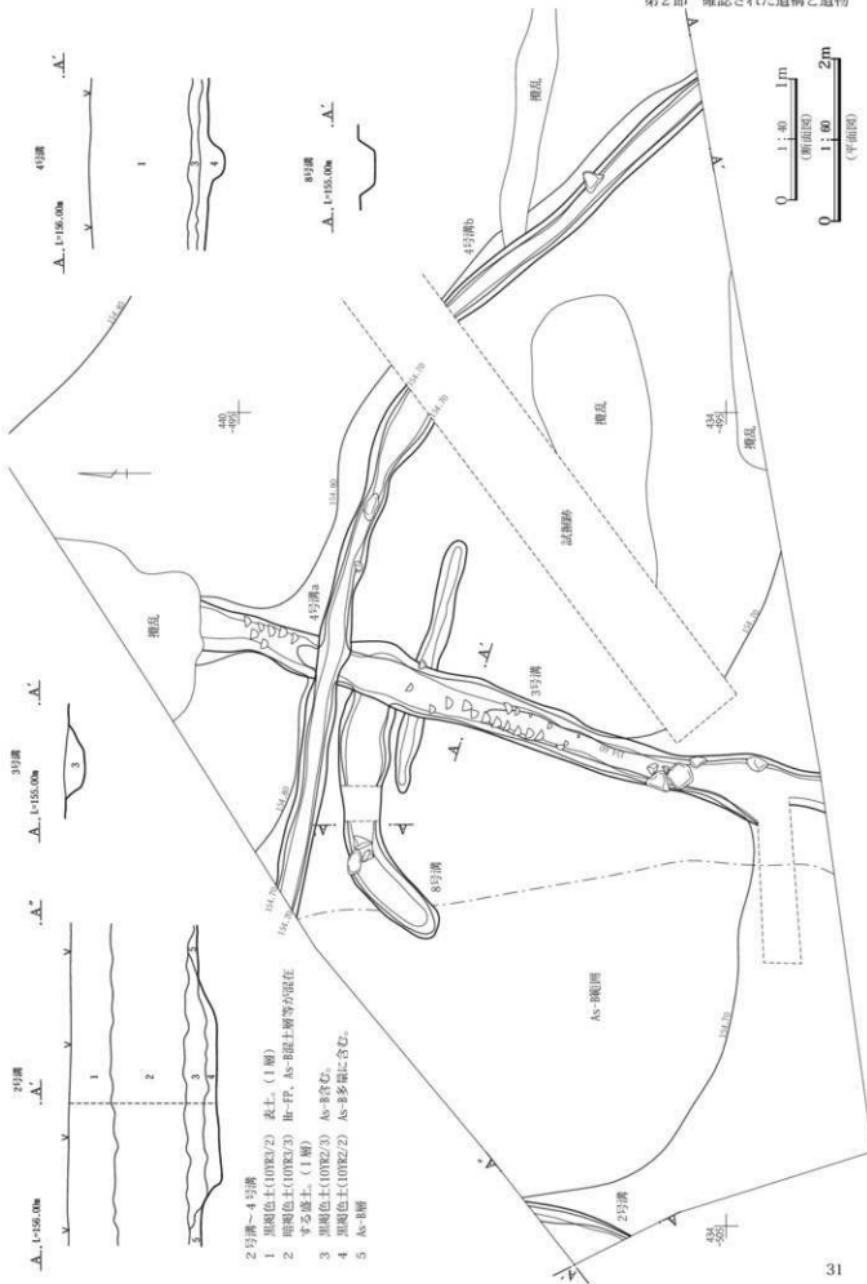


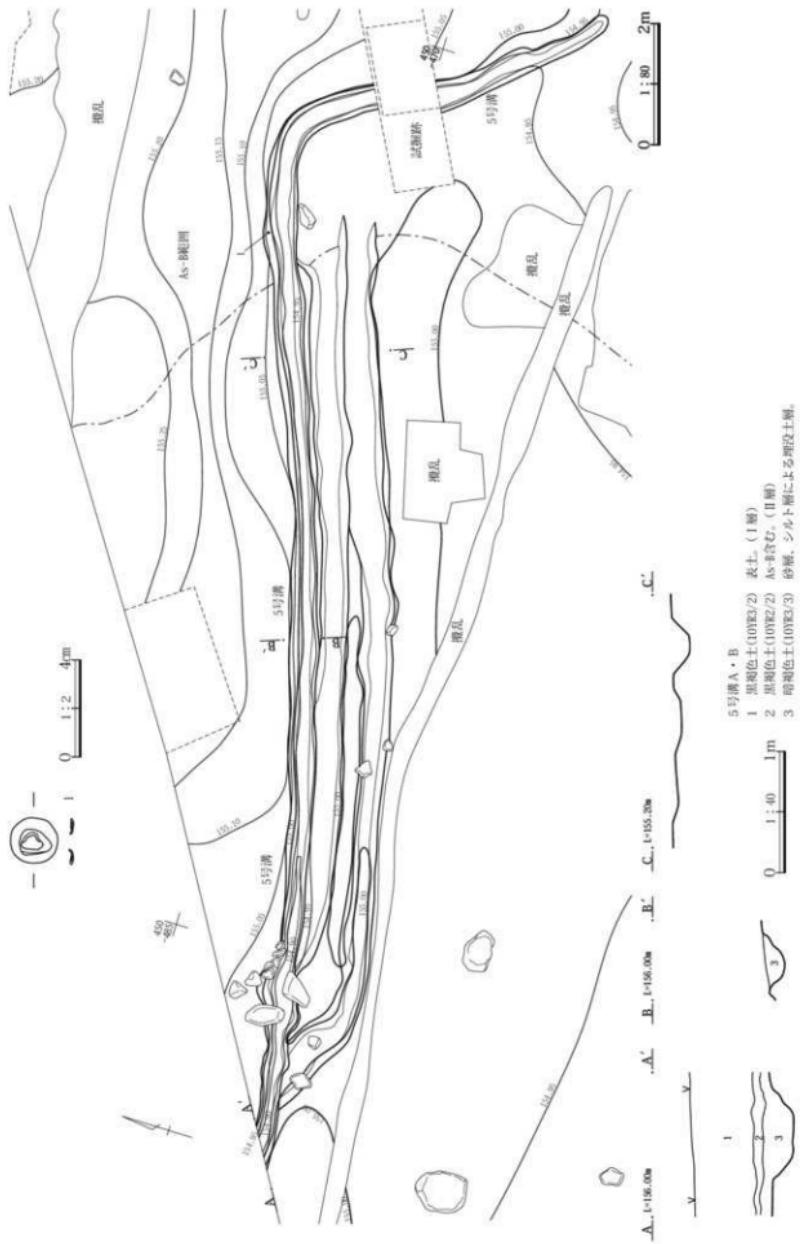
第17図 1面全体図



第18図 1面 1号溝平・断面図

第2節 確認された遺構と遺物





第20図 1面5号溝・断面図・出土遺物実測図

第2節 確認された遺構と遺物

6号溝

A, L=150.00m A'

I



B, L=155.00m B'

C'

C, L=155.00m



7号溝

A, L=156.00m A'

I



B, L=155.10m B'



L=155.00m

C'



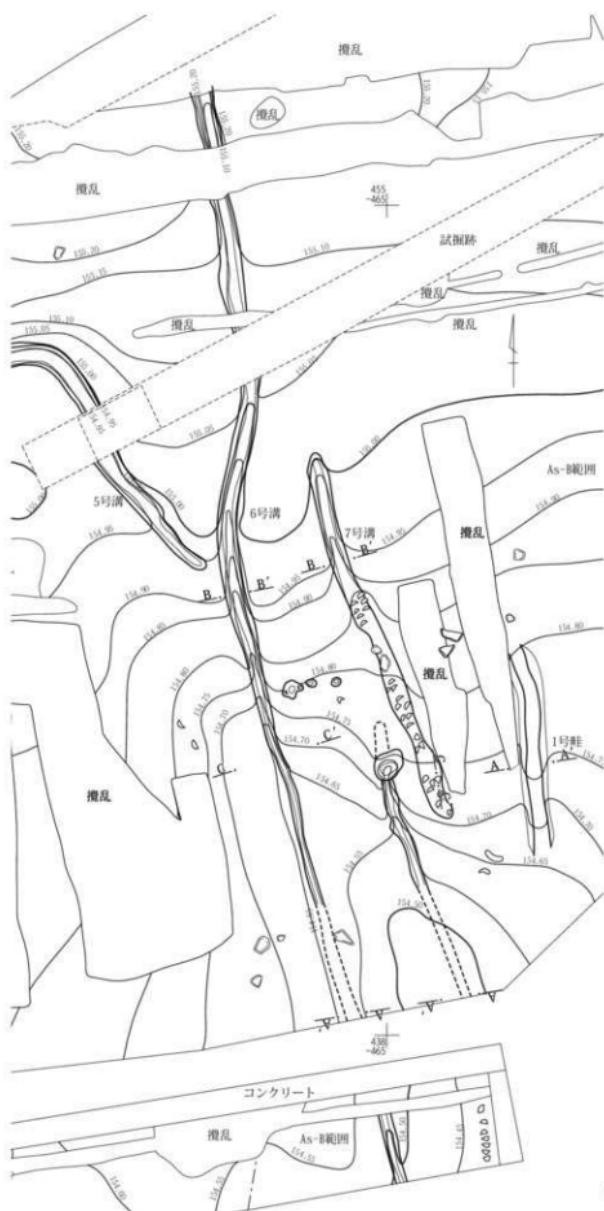
1号跡

A, L=155.00m A'

コンクリート

0 1:40 1m

0 1:100 5m



第21図 1面 6号溝、7号溝、1号跡平・断面図

6号溝A

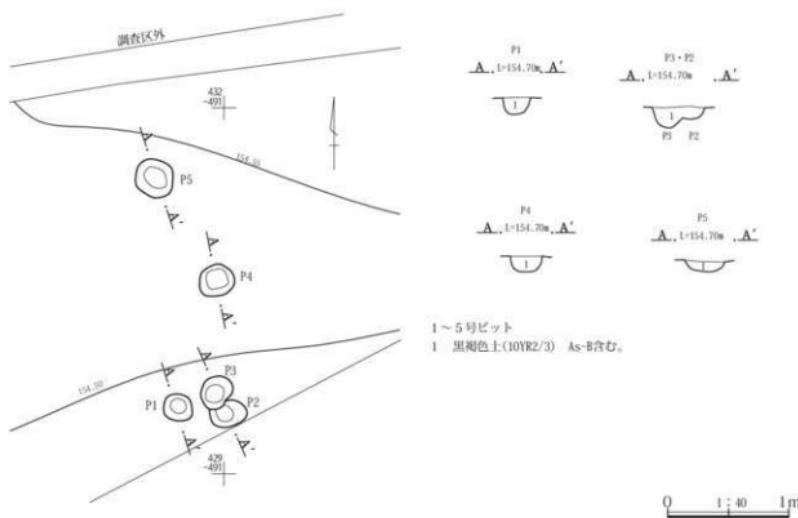
- 1 暗褐色土(10YR2/3) 表上。(I層)
- 3 黒褐色土(10YR2/3) As-B含む。(II層)
- 4 黒褐色土(10YR3/2) As-B多量に含む。
- 5 As-B層 (III層)

7号溝A・B・C

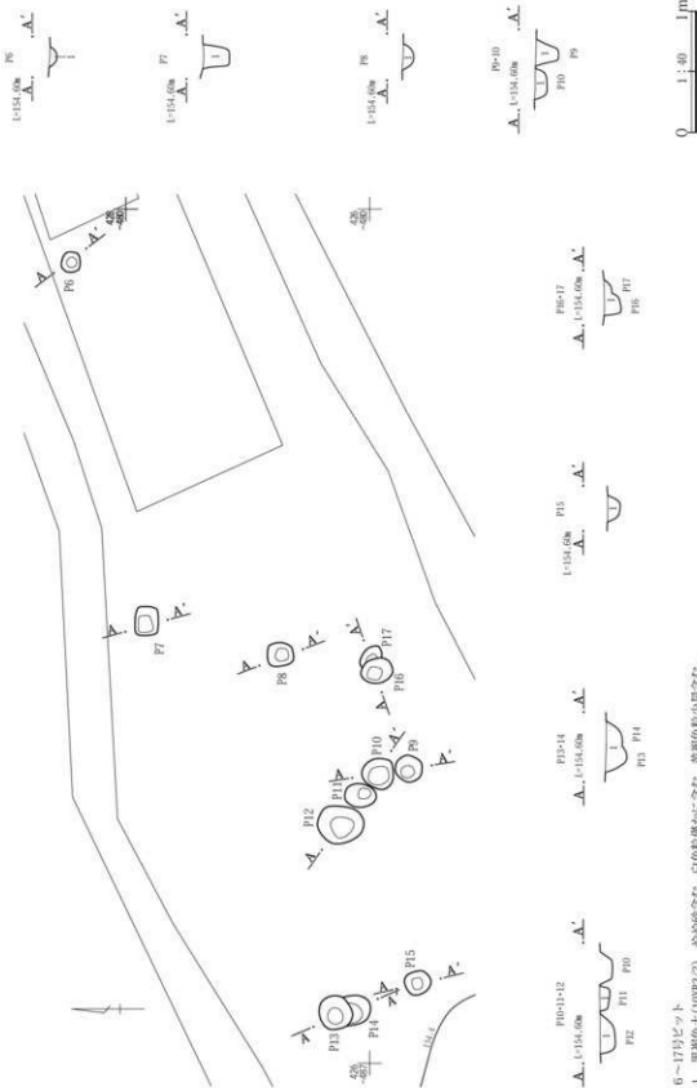
- 1 黒褐色土(10YR2/3) As-B多量に含む。(I層)
- 3 黒褐色土(10YR2/3) As-B含む。(II層)
- 4 黒褐色土(10YR3/2) As-B多量に含む。
- 5 As-B層 (III層)
- 7 極暗褐色土(7.5YR2/3) シルト質。
- 8 黒褐色土(10YR2/2) As-B多量に含む。

6号溝B・C

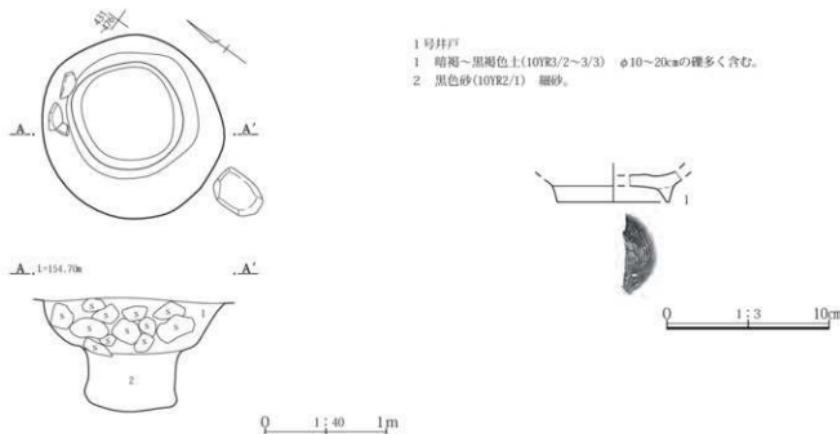
- 1 黒褐色土(10YR2/2) As-B含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) As-B多量に含む。
- 3 As-B層 (III層)



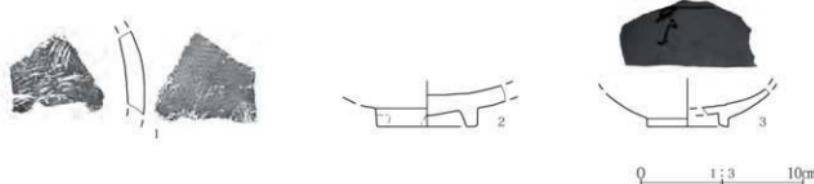
第22図 1面ビット群平・断面図



第23図 2面ピット群平・断面図



第24図 2面1号井戸平・断面図、出土遺物図



第25図 1区遺構外出土遺物図

第3節 調査のまとめ

土地改良による削平により遺構の残存状態が不良であったが、As-Bを掘り込む耕作具痕（3号溝、7号溝）の存在やAs-B下水田耕作土下面に相当する2面の井戸やピット群の存在など、白川扇状地に立地する遺跡の特徴は確認できたと言えよう。また、As-Bを多く含む土で埋没した1面の5号溝から煙管が出土したことにより、As-Bを含む土で埋没した遺構が江戸時代にまで下る可

能性が指摘できた点は重要である。当然のことながら、As-Bを含む土で埋没した遺構すべてが江戸時代ということではなく、中世から江戸時代という幅広い時代の中でとらえる必要があるということである。

隣接する北陸新幹線調査時の下芝上田屋遺跡3区においてもAs-Bを掘り込む耕作具痕は確認されている。しかし、3区の場合は帯状をなす密集地は存在するものの、溝内では確認されておらず、この点が異なっている。この違いがどの様な作業によって生じたのかは今後の調査・研究を待ちたい。

報告書抄録

書名ふりがな	しもししばかみたやいせき かみしばにしりゅうのみやいせき
書名	下芝上田屋遺跡 上芝西龍之宮遺跡
副書名	西毛広域幹線道路(高崎西工区)社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第718集
編著者名	大西雅広
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20230314
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

書名ふりがな	しもししばかみたやいせき
遺跡名	下芝上田屋遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんのかさきしみさとまち
遺跡所在地	群馬県高崎市真郷町
市町村コード	102024
遺跡番号	04024
北緯(世界測地系)	36.378865(10進法表記)
東経(世界測地系)	138.958722(10進法表記)
調査期間	20210401-20210531
調査面積	839.63m ²
調査原因	道路建設
種別	生産
主な時代	平安時代+中近世
遺跡概要	平安時代-溝2、古墳時代から平安時代-水田1面+畑1面
特記事項	
要約	

遺跡名ふりがな	かみしばにしりゅうのみやいせき
遺跡名	上芝西龍之宮遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんのかさきしみさとまち
遺跡所在地	群馬県高崎市真郷町
市町村コード	102024
遺跡番号	04023
北緯(世界測地系)	36.379061(10進法表記)
東経(世界測地系)	138.958786(10進法表記)
調査期間	20201001-20201031、20210401-20210531
調査面積	1,701.78m ²
調査原因	道路建設
種別	集落／生産
主な時代	平安時代+中近世
遺跡概要	平安時代-井戸1+ピット11+水田1、中・近世-溝8+ピット5
特記事項	
要約	

写 真 図 版

PL. 1 から PL. 4 下芝上田屋遺跡

PL. 5 から PL. 14 上芝西龍之宮遺跡

下芝上田屋遺跡



1 4区1面全景(南東から)



2 4区1面南側(東から)



3 4区1面北側(南東から)



4 4区1面東側(北西から)



5 4区1面 1・2号溝全景(北から)



6 4区1面 1・2号溝全景(北西から)



7 4区1面 1号溝南部(北西から)



8 4区1面 1・2号溝(南東から)



1 4区1面 1・2号溝北西部(南から)



2 4区1面 1号溝土層断面B



3 4区2面 水田確認状態(北東から)



4 4区2面 水田確認状態(東から)



5 4区2面 水田全景(北東から)



6 4区2面 水田西側(南西から)



7 4区2面 水田全景(西から)



8 4区2面 水田全景(東から)

下芝上田屋遺跡



1 4区3面 煙全景(北西から)



2 4区3面 煙全景(南東から)



3 4区3面 煙中央部(北から)



4 4区3面 煙西侧(北から)



5 4区3面 煙中央部(南から)



6 4区3面 煙中央部(南から)



7 4区3面 煙西侧(南から)



8 4区3面 煙東側(南から)



1 4区3面 煙北側(北西から)



2 4区3面 河道と煙(北東から)



3 4区3面 煙北側(北から)



4 4区3面 河道土層断面



5 4区深掘りトレンチ土層断面B



6 4区深掘りトレンチ土層断面C



7 4区深掘りトレンチ土層断面D



8 4区遺構外出土遺物

上芝西龍之宮遺跡



1 遺跡(中央下)上空から榛名山(左上)を望む 白川扇状地と相馬ヶ原扇状地が広がる



2 遺跡(中央下)上空から赤城山を望む 白川扇状地と相馬ヶ原扇状地が広がる



1 1区1面全景(北東から) 北陸新幹線越しに樹木が茂る十文字台地を望む



2 1区1面全景(北西から) 白川、相馬ヶ原扇状地と高崎駅へと延びる北陸新幹線

上芝西龍之宮遺跡



1 1区1面全景(東から)



2 1区1面全景(上から)



1 1区1面東側（上から）



2 1区1面西側（上から）



3 1区1面全景(南西から)



4 1区1面 1号溝全景(南西から)



5 1区1面 1号溝全景(北から)



6 1区1面 1号溝全景(西から)



7 1区1面 1号溝土層断面A



8 1区1面 3号溝(南から)

上芝西龍之宮遺跡



1 1区1面 3号溝(西から)



2 1区1面 4号溝全景(南東から)



3 1区1面 4号溝土層断面A



4 1区1面 5号溝西側(東から)



5 1区1面 5号溝土層断面A



6 1区1面 5号溝土層断面B



7 1区1面 6号溝全景(南から)



8 1区1面 6号溝土層断面C



1 1区1面 7号溝全景(南から)



2 1区1面 7号溝耕作具痕(南から)



3 1区1面 7号溝耕作具痕(南から)



4 1区1面 7号溝耕作具痕確認状態(西から)



5 1区1面 7号溝耕作具痕確認状態(西から)



6 1区1面 7号溝耕作具痕断面(1)



7 1区1面 7号溝耕作具痕断面(2)



8 1区1面 7号溝耕作具痕完掘後(西から)

上芝西龍之宮遺跡



1 1区1面 1号群全景(南から)



2 1区1面 1号ビット全景(西から)



3 1区1面 2号・3号ビット全景(東から)



4 1区1面 4号ビット全景(西から)



5 1区1面 5号ビット全景(西から)



6 3区1面(As-B下)全景(南から)



7 3区1面(As-B下)北東側(南東から)



8 3区1面(As-B下)南西側(南東から)



1 3区2面 東側(南西から)



2 3区2面 1号井戸土層断面(南西から)



3 3区2面 1号井戸全景(北から)



4 3区2面 7号から15号ピット全景(南から)



5 3区2面 6号ピット全景(南から)



6 3区2面 7号ピット全景(西から)



7 3区2面 8号ピット全景(西から)



8 3区2面 9号から12号ピット全景(南西から)

上芝西龍之宮遺跡



1 3区2面 9号ピット全景(南から)



2 3区2面 10号ピット全景(南西から)



3 3区2面 11号ピット全景(南西から)



4 3区2面 12号ピット全景(南西から)



5 3区2面 13号・14号ピット全景(南西から)



6 3区2面 15号ピット全景(西から)



7 3区2面 16号ピット全景(西から)



8 3区2面 17号ピット全景(西から)



1 1区1面 5号溝出土遺物1

2 3区2面 1号井戸出土遺物1



3 1区遺構外出土遺物1

4 1区遺構外出土遺物2



5 1区遺構外出土遺物3

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第718集

下芝上田屋遺跡 上芝西龍之宮遺跡

西毛広域幹線道路(高崎西工区)社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

令和5(2023)年3月10日 印刷
令和5(2023)年3月14日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下郷田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社 開文社印刷所

